

2026年度

サレジオ工業高等専門学校

情報公開

(3. 財務情報)

2026年9月現在

(1)令和7年度の計算書類(貸貸貸借表、収支計算書(事業活動収支計算書、資金収支計算書及び活動区分資金収支計算書)、注意事項)

貸 借 対 照 表

令和8年3月31日

<総括表>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	10,256,326,033	10,303,131,457	▲ 46,805,424
有形固定資産	8,861,467,825	8,960,124,688	▲ 98,656,863
特定資産	1,389,675,724	1,338,695,049	50,980,675
その他の固定資産	5,182,484	4,311,720	870,764
流動資産	1,648,578,146	1,783,268,731	▲ 134,690,585
資産の部合計	11,904,904,179	12,086,400,188	▲ 181,496,009
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	641,478,110	677,255,567	▲ 35,777,457
流動負債	202,493,462	167,387,949	35,105,513
負債の部合計	843,971,572	844,643,516	▲ 671,944
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	13,952,795,187	13,856,273,867	96,521,320
第1号基本金	13,832,280,968	13,735,759,648	96,521,320
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	120,514,219	120,514,219	0
繰越収支差額	▲ 2,891,862,580	▲ 2,614,517,195	▲ 277,345,385
純資産の部合計	11,060,932,607	11,241,756,672	▲ 180,824,065
負債及び純資産の部合計	11,904,904,179	12,086,400,188	▲ 181,496,009

事業活動収支計算書

令和7年4月1日から
令和8年3月31日まで

<総括表>

(単位 円)

（単位：千円）					
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	1,036,892,700	1,058,592,082	▲ 21,699,382
		手数料	7,429,000	7,685,300	▲ 256,300
		寄付金	10,126,000	10,822,326	▲ 696,326
		経常費等補助金	503,947,900	509,991,162	▲ 6,043,262
		国庫補助金	126,672,000	129,913,400	▲ 3,241,400
		地方公共団体補助金	377,275,900	380,077,762	▲ 2,801,862
		付随事業収入	50,531,500	52,862,346	▲ 2,330,846
		雑収入	51,070,132	52,442,319	▲ 1,372,187
		教育活動収入計	1,659,997,232	1,692,395,535	▲ 32,398,303
		事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算
	人件費		1,117,280,745	1,076,722,414	40,558,331
	教育研究経費		631,276,815	631,330,975	▲ 54,160
	管理経費		153,677,318	146,687,986	6,989,332
徴収不能額等	0		0	0	
教育活動支出計	1,902,234,878		1,854,741,375	47,493,503	
教育活動収支差額		▲ 242,237,646	▲ 162,345,840	▲ 79,891,806	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	2,771,232	3,182,747	▲ 411,515
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,771,232	3,182,747	▲ 411,515
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金利息	1,751,000	1,750,808	192
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	1,751,000	1,750,808	192
	教育活動外収支差額		1,020,232	1,431,939	▲ 411,707
	経常収支差額		▲ 241,217,414	▲ 160,913,901	▲ 80,303,513
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	35,400,000	40,706,571	▲ 5,306,571
		特別収入計	35,400,000	40,706,571	▲ 5,306,571
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	4,040,002	3,981,916	58,086
		その他の特別支出	56,634,816	56,634,819	▲ 3
		特別支出計	60,674,818	60,616,735	58,083
	特別収支差額		▲ 25,274,818	▲ 19,910,164	▲ 5,364,654
	〔予備費〕		(11,040,000)		10,960,000
基本金組入前当年度収支差額		▲ 277,452,232	▲ 180,824,065	▲ 96,628,167	
基本金組入額合計		25,900,000	▲ 96,521,320	122,421,320	
当年度収支差額		▲ 251,552,232	▲ 277,345,385	25,793,153	
前年度繰越収支差額		▲ 2,640,912,286	▲ 2,614,517,195	▲ 26,395,091	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 2,892,464,518	▲ 2,891,862,580	▲ 601,938	
（参考）					
事業活動収入計		1,698,168,464	1,736,284,853	▲ 38,116,389	
事業活動支出計		1,975,620,696	1,917,108,918	58,511,778	

法人名: 学校法人 育英学院

資 金 収 支 計 算 書
令和7年4月1日から
令和8年3月31日まで

＜総括表＞ (単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,036,892,700	1,058,592,082	▲ 21,699,382
手数料収入	7,429,000	7,685,300	▲ 256,300
寄付金収入	11,146,000	13,902,911	▲ 2,756,911
補助金収入	537,347,900	543,391,162	▲ 6,043,262
国庫補助金収入	126,672,000	129,913,400	▲ 3,241,400
地方公共団体補助金収入	410,675,900	413,477,762	▲ 2,801,862
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	50,531,500	52,862,346	▲ 2,330,846
受取利息・配当金収入	2,771,232	3,182,747	▲ 411,515
雑収入	51,070,132	53,542,319	▲ 2,472,187
借入金等収入	9,504,000	0	9,504,000
前受金収入	59,020,000	55,180,000	3,840,000
その他の収入	108,975,264	125,119,196	▲ 16,143,932
資金収入調整勘定	▲ 88,305,000	▲ 121,548,923	33,243,923
前年度繰越支払資金	1,625,850,406	1,625,850,406	0
収入の部合計	3,412,233,134	3,417,759,546	▲ 5,526,412
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,089,241,362	1,089,306,511	▲ 65,149
教育研究経費支出	458,753,815	458,716,357	37,458
管理経費支出	124,090,318	117,527,192	6,563,126
借入金等利息支出	1,751,000	1,750,808	192
借入金等返済支出	32,838,000	23,334,000	9,504,000
施設関係支出	25,009,000	24,750,000	259,000
設備関係支出	85,309,000	84,845,443	463,557
資産運用支出	50,981,000	50,980,675	325
その他の支出	66,261,244	61,213,397	5,047,847
〔予備費〕	(5,200,000) 16,800,000		16,800,000
資金支出調整勘定	▲ 29,635,331	▲ 36,739,297	7,103,966
翌年度繰越支払資金	1,490,833,726	1,542,074,460	▲ 51,240,734
支出の部合計	3,412,233,134	3,417,759,546	▲ 5,526,412

活動区分資金収支計算書

令和7年4月1日から
令和8年3月31日まで

＜総括表＞

(単位 円)

教育活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	支出	
	学生生徒等納付金収入		1,058,592,082
	手数料収入		7,685,300
	経常費等補助金収入		509,991,162
	教育活動資金収入計		1,691,254,120
		人件費支出	1,089,306,511
		教育研究経費支出	458,716,357
		調整勘定等	35,366,842
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	支出	
	施設設備補助金収入		33,400,000
	施設整備等活動資金収入計		37,622,000
		施設関係支出	24,750,000
		設備関係支出	84,845,443
		施設整備等活動資金支出計	160,576,118
		差引	▲ 122,954,118
		調整勘定等	0
	施設整備等活動資金収支差額		▲ 122,954,118
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	支出	
	借入金等収入		0
	小計		1,997,560
	受取利息・配当金収入		3,182,747
	その他の活動資金収入計		6,280,307
		借入金等返済支出	23,334,000
		小計	26,422,229
		借入金等利息支出	1,750,808
		調整勘定等	0
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			▲ 83,775,946
前年度繰越支払資金			1,625,850,406
翌年度繰越支払資金			1,542,074,460

1. 引当金の計上基準その他の計算書類の作成に関する重要な会計方針
- (1) 引当金の計上基準
- 徴収不能引当金
…未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。
- 賞与引当金
…教職員に対する賞与の支給に備えるため、当年度に負担すべき支給見込額を計上している。
- 退職給与引当金
…退職金の支給に備えるためサレジオ工業高等専門学校と法人本部においては、退職金期末要支給額 261,139,720円 の100%をサレジオ工業高等専門学校以外の学校においては、退職金期末要支給額 260,654,779円 から東京都私学財団よりの交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。
- (2) その他の重要な会計方針
- 有価証券の評価基準及び評価方法
…移動平均法に基づく原価法である。
- 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法
…預り金、仮払金、立替金に係る収入と支出は、部門別に相殺して表示している。

2. 重要な会計方針の変更等
- (1) 改正後の学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）の適用
当年度から、学校法人会計基準の一部を改正する省令（令和6年文部科学省令第28号）に基づく改正後の学校法人会計基準を適用し、計算書類及びその附属明細書の様式を変更している。
- (2) 賞与引当金の計上
学校法人会計基準の改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度から計上している。これにより期首に計上すべき額として特別収支に 52,001,619円を計上し、当年度に賞与として支給した額から特別収支の計上額を除いた額及び支給は翌年度であるが当年度の支給対象期間に相応する額として、人件費に 51,860,979円を計上している。この結果、従来の方々と比較して教育活動収支差額、経常収支差額が 140,640円増加し、基本金組入前当年度収支差額が 51,860,979円減少している。

3. 固定資産の減価償却額の累計額の合計額 5,792,302,061円

4. 金銭債権の徴収不能引当金の合計額 608,977円

5. 担保に供されている資産の種類及び額
担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土地	253,160,117円
建物	219,515,872円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 106,834,000円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. セグメント情報

(単位 円)					
科目	セグメント	サレジオ 工業高等専門学校	幼稚園・小学校・中学校	学校法人	合計
教育活動収入計		1,046,134,770	645,119,197	1,141,568	1,692,395,535
教育活動支出計		1,150,308,400	674,577,720	29,855,255	1,854,741,375
教育活動収支差額		△104,173,630	△29,458,523	△28,713,687	△162,345,840
教育活動外収支差額		1,065,396	300,157	66,386	1,431,939
経常収支差額		△103,108,234	△29,158,366	△28,647,301	△160,913,901
特別収支差額		△3,439,545	△15,856,476	△614,143	△19,910,164
基本金組入前当年度収支差額		△106,547,779	△45,014,842	△29,261,444	△180,824,065
基本金組入額合計		△50,728,435	△45,792,885	0	△96,521,320
当年度収支差額		△157,276,214	△90,807,727	△29,261,444	△277,345,385

- (注1) セグメント情報は拠点区分別（設置学校別）の収支情報の内訳を示すものであり、必ずしも理事会が経営資源の配分の決定及び業績を評価すること等を目的とした財務情報にはなっていない。
- (注2) 各セグメントの主な区分方法は、拠点区分に応じて「高等専門学校」「幼稚園・小学校・中学校」「学校法人」に区分している。「幼稚園・小学校・中学校」には、目黒サレジオ幼稚園、足立サレジオ幼稚園、町田サレジオ幼稚園、サレジオ小学校、サレジオ中学校を含んでいる。
- (注3) 収入額及び支出額の各セグメントへの配分方法は、昭和55年11月4日付け文管企第250号文部省管理局長通知「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について（通知）」に記載の方法を適用している。

9. 重要な偶発債務 該当なし
10. 子法人に関する事項 該当なし
11. 学校法人の出資による会社に係る事項 該当なし

12. 関連当事者 との取引の内容に関する事項

関連当事者 との取引の内容は、次のとおりである。

(単位 千円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長	並木 豊勝	—	—	—	—	—	—	借入に対する被保証(注1)	74,970	—	—
当該学校法人 と同一の関係法人をもつ法人	社会福祉法人東京サレジオ学園	東京都小平市	—	社会福祉事業	—	兼任1名	小学校・中学校のグラウンド、体育館	無償の土地・建物の使用貸借	—	—	—
当該学校法人 と同一の関係法人をもつ法人	一般社団法人FMA国際ボランティアVIDES	東京都北区	—	国際協力事業	—	—	山中湖サレジオ山荘	無償の土地・建物の使用貸借	—	—	—

(注1) 園舎新築借入金 に係る日本私立学校振興・共済事業団 と当法人 との金銭消費貸借契約 において、当法人 と連携して債務を負っています。

13. 学校法人間 の財務取引

該当なし

14. 重要な後発事象

該当なし

15. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額 を超えるもの	2,559,463	2,896,299	336,836
(うち満期保有目的 の債券)	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額 を超えないもの	0	0	0
(うち満期保有目的 の債券)	(0)	(0)	(0)
合 計	2,559,463	2,896,299	336,836
(うち満期保有目的 の債券)	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	2,559,463		

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	0	0	0
株式	(0)	(0)	(0)
投資信託	2,559,463	2,896,299	336,836
貸付信託	(0)	(0)	(0)
その他	0	0	0
合 計	(2,559,463)	(2,896,299)	(336,836)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	2,559,463		

(2) 令和7年度末の事業報告書

令和7年度 事業報告書

- 1 育英学院概要
- 2 育英学院事業報告書
- 3 育英学院財政の概要

学校法人 育英学院

1. 育英学院概要

(1)基本情報

①法人の名称 学校法人 育英学院

②主たる事務所 住所 194-0215 東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号

電話 042-775-3020 FAX 042-775-3023

ホームページ https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/ikueigakuin.html

(2)建学の精神

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従いつつ、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

【学校法人育英学院寄附行為 第3条】

(3)学校法人の沿革

昭和 8年	学校設立準備、学校設立代表者ヴィンセンシオ・チマッチ
9年	東京育英工芸学校を創設、乙種工業学校として印刷科を設置
10年 4月 1日	学校開設
13年 4月	木材工芸科を新設
15年 2月22日	財団法人組織とし、帝都育英学院と称する
17年 3月	甲種工業学校に昇格、帝都育英工業学校と改称
22年 4月	学制改革により帝都育英中学校を併設
23年 3月	学制改革により帝都育英工業高等学校と改称
24年 4月	電気科を新設
26年 2月26日	学校法人組織となり「学校法人 帝都育英学院」と改称
34年 9月10日	カトリック・サレジオ修道会より目黒サレジオ幼稚園（昭和24年3月30日開設）を移管される
34年 9月10日	目黒サレジオ中学校を設置する
35年 3月12日	帝都育英中学校、帝都育英工業高等学校の校名を「育英中学校」ならびに「育英工業高等学校」と改称
37年 12月15日	育英高等専門学校を設立する（既設学科：印刷工学科、電気工学科、工業意匠学科）
38年 4月26日	サレジオ高等学校を設置する（全日制：普通科）
38年 10月 3日	学校法人名「学校法人 育英学院」と改称
38年 10月 3日	学校法人東京サレジオ学園を吸収合併する (サレジオ小学校：昭和22年4月1日設立、サレジオ中学校：昭和23年3月14日設立)
40年 3月 1日	育英工業高等学校を廃校する
42年 3月13日	足立サレジオ幼稚園を設置する 育英高等専門学校を「育英工業高等専門学校」と改称、 工業意匠学科を「工業デザイン学科」に変更改称する
43年 3月30日	川崎サレジオ幼稚園を設置する
50年 1月30日	川崎サレジオ中学校を設置する 印刷工学科を「グラフィック工学科」と改称する
51年 2月23日	目黒サレジオ中学校を廃校する
58年 4月 1日	サレジオ高等学校、川崎サレジオ中学校、川崎サレジオ幼稚園を「育英学院」より法人分離 (新設法人名「学校法人サレジオ学院」と称する)
62年 12月23日	電気工学科収容定員450人から675人に変更認可
62年 12月23日	グラフィック工学科450人から225人に変更認可
63年 4月 1日	情報教育センター設置、男女共学の実施
平成 元年 4月 1日	電子工学科、情報工学科を開設する 定員1学年各45人
2年 3月22日	育英中学校を廃校する
5年 3月31日	女子第1期生卒業
6年 4月 1日	1年生混成学級編成 研究生第1期生入学 グラフィック工学科
7年 4月 1日	1・2年混成学級編成 研究生第2期生入学 工業デザイン学科
9年 2月12日	グラフィック工学科をビジュアル情報工学科に、工業デザイン学科をデザイン工学科に学科名改称する
10年 4月 1日	サレジオ文化技術交流センター（SITEC）での教育活動を開始する
13年 2月15日	専攻科生産システム工学専攻設置認可
14年 3月11日	育英工業高等専門学校のキャンパスを多摩ニュータウン町田グランネットタウン 小山地区（京王線：多摩境駅）に移転する計画を決定し準備に入る。

平成17年 3月31日	東京都町田市小山ヶ丘4-6-8に育英工業高等専門学校キャンパス移転完了
17年 4月 1日	ビジュアル情報工学科第38期生卒業 同学科閉科
17年 4月 1日	「育英工業高等専門学校」の校名を「サレジオ工業高等専門学校」に改称する。
17年 5月13日	サレジオ工業高等専門学校町田キャンパス開所
19年 5月29日	サレジオ工業高等専門学校新校舎落成式
19年 5月29日	ビジュアル情報工学科廃止届。
21年 4月 1日	電子工学科の名称を機械電子工学科に改める。
27年 4月 1日	デザイン工学科の名称をデザイン学科に改める。
令和 7年 4月 1日	町田サレジオ幼稚園を設置する（平成27年3月31日認可）
令和 8年 4月 1日	デザイン学科、電気工学科、機械電子工学科の募集停止
	情報工学科定員225人から800人に変更
	町田サレジオ幼稚園は私学助成園から施設型給付幼稚園へ移行

(4)設置する学校・学科

令和7年5月1日現在

学校及び学科名	設置年月日	校長・園長名	住 所	電話・FAX
サレジオ工業高等専門学校	昭37.12.15	小 島 知 博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3021
デザイン学科	昭37.12.15			
電気工学科	昭37.12.15			
機械電子工学科	平元.12.22			
情報工学科	平元.12.22			
専攻科 生産システム専攻	平13.2.15			
サレジオ中学校	昭23.3.24	北 川 純 二	東京都小平市上水南町四丁目7番1号	TEL 042-321-0312 FAX 042-321-0776
サレジオ小学校	昭22.3.29			
目黒サレジオ幼稚園	昭24.8.30	三 島 心	東京都目黒区碑文谷一丁目26番24号	TEL 03-3714-2531
足立サレジオ幼稚園	昭42.3.13	生 井 順 子	東京都足立区江北三丁目40番27号	TEL 03-3899-4497
町田サレジオ幼稚園	平27.4.1	松 永 伸 子	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番2号	TEL 042-775-3120

(5)学校・学科等の学生・生徒・児童・園児の現況

令和7年5月1日現在

学校・幼稚園名		入学定員	収容定員	現員数
サレジオ工業高等専門学校	専攻科	14	28	23
	情報工学科	160	340	326
	電気工学科	0	180	90
	機械電子工学科	0	180	153
	デザイン学科	0	180	158
サレジオ中学校		30	90	71
サレジオ小学校		30	180	81
目黒サレジオ幼稚園		(年少) 110	450	180
足立サレジオ幼稚園		(年少) 30	105	70
町田サレジオ幼稚園		(年少) 50	180	93

(6)収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
サレジオ工業高等専門学校	89.6%	89.1%	85.3%	89.0%	82.6%

※本科のみ

(7)役員の概要

定員数

理事：6名以上7名以内 監事：2人【学校法人育英学院寄附行為 第5条】令和7年6月1日現在

役員区分	氏 名	就任年月日	常勤 非常勤	主な現職等
第7条2号	並木 豊勝	平成26年12月2日	非常勤	育英学院理事長
第7条1号	小島 知博	平成17年5月31日	常勤	サレジオ工業高等専門学校長
第7条2号	北川 純二	平成26年4月1日	常勤	サレジオ中学校長 サレジオ小学校長
第7条2号	三島 心	平成30年4月1日	常勤	目黒サレジオ幼稚園長
第7条2号	菅野 正一	令和7年5月21日	常勤	常務理事
第7条2号	木村 彰男	平成31年4月15日	非常勤	外部理事
第7条2号	米本 光男	平成23年5月26日	非常勤	外部理事
第22条1号	須藤 哲史	令和7年5月21日	常勤	監事、サレジオ学院監事
第22条1号	大川 千寿	令和7年5月21日	非常勤	監事、神奈川大学教授

(8)評議員の概要

定員数：7名以上8名以内 【学校法人育英学院寄附行為 第5条】 令和7年6月1日現在

評議員区分	氏 名	就任年月日	主な現職等
第31条1号	松永 伸子	平成31年4月1日	町田サレジオ幼稚園長
第31条1号	山野邊基雄	令和2年1月1日	サレジオ工業高等専門学校副校長
第31条2号	奥山 勇人	令和6年4月1日	育英学院同窓会長
第31条3号	田村 寛	令和3年4月1日	東京サレジオ学園 施設長
第31条3号	田中 亜矢子	令和6年5月23日	地域関係者
第31条3号	春山 ミカエルラップ	令和7年5月21日	サレジオ修道会 司祭
第31条3号	浦田 慎二郎	令和7年5月21日	サレジオ修道会 司祭
第31条3号	木戸 能史	平成14年4月1日	元育英学院 常務理事

(9)教職員の概要

令和7年5月1日現在

学校名 \ 職名	校 長 園 長	教 授	准教授	講 師 教 諭	助 教 助 手	非常勤 講 師	事 務 職 員	非常勤 職員	合 計
法人本部	人	人	人	人	人	人	人 1	人 1	人 2
サレジオ工業 高等専門学校	1	12	15	12	3	36	25	9	113
サレジオ中学校	1			9		2		1	13
サレジオ小学校	(1)			9		2	1	2	14
目黒サレジオ幼稚園	1			16		6	4	9	36

足立サレジオ幼稚園	1			6		2	1	6	16
町田サレジオ幼稚園	1			10		7	2	5	25
計	5	12	15	62	3	55	34	33	219

(10)その他

『学校法人育英学院寄附行為』は https://www.salesio-sp.ac.jp/main/about_us/ikueigakuin.html

・会議報告

理事・評議員会選任機関報告

令和7年4月23日（水） 午後4時30分から

理事・評議員選任機関構成員 5名

- 第1号議案 理事・評議員選任機関 構成員の確認
- 第2号議案 理事候補者の選任
- 第3号議案 評議員候補者の選任
- 第4号議案 その他の重要事項及び報告

理事会報告

<旧体制>

令和7年5月21日（水） 午後1時30分から

出席理事 7名 出席監事 2名

- 第1号議案 令和6年度事業報告について
- 第2号議案 令和6年度決算報告について
- 第3号議案 令和6年度財産目録について
- 第4号議案 監事の監査（業務・決算）報告
- 第5号議案 令和6年度監事監査報告書
- 第6号議案 令和6年度学校自己点検評価書について
- 第7号議案 各所からの稟申について
- 第8号議案 人事関連について
- 第9号議案 新理事・新監事・新評議員の確認
- 第10号議案 その他の重要事項及び報告

<新体制>

令和7年5月21日（水） 午後4時50分から

出席理事 7名 出席監事 2名

- 第1号議案 新理事・新監事・新評議員の確認
- 第2号議案 理事長の選定
- 第3号議案 学校法人育英学院役員報酬規程について
- 第4号議案 その他の重要事項及び報告

令和 7 年 9 月 3 日（水） 午後 2 時 30 分から

出席理事 7 名 出席監事 2 名

- 第 1 号議案 サレジオ工業高等専門学校について
- 第 2 号議案 サレジオ小学校・中学校について
- 第 3 号議案 目黒サレジオ幼稚園について
- 第 4 号議案 足立サレジオ幼稚園について
- 第 5 号議案 町田サレジオ幼稚園について
- 第 6 号議案 法人本部について
- 第 7 号議案 臨時評議員会議案について
- 第 8 号議案 その他の重要事項及び報告

令和 7 年 12 月 3 日（水） 午後 2 時 30 分から

出席理事 7 名 出席監事 2 名

- 第 1 号議案 令和 7 年度募集状況について
- 第 2 号議案 令和 7 年度賞与等について
- 第 3 号議案 サレジオ工業高等専門学校について
- 第 4 号議案 サレジオ小学校・中学校について
- 第 5 号議案 目黒サレジオ幼稚園について
- 第 6 号議案 足立サレジオ幼稚園について
- 第 7 号議案 町田サレジオ幼稚園について
- 第 8 号議案 法人本部について
- 第 9 号議案 臨時評議員会議案について
- 第 10 号議案 その他の重要事項及び報告

令和 8 年 3 月 27 日（金） 午後 2 時 30 分から

出席理事 7 名 出席監事 2 名

- 第 1 号議案 令和 7 年度第 1 回補正予算について
- 第 2 号議案 令和 8 年度事業計画について
- 第 3 号議案 令和 8 年度当初予算について
- 第 4 号議案 学校法人育英学院寄附行為変更について（収益事業）
- 第 5 号議案 法人本部について
- 第 6 号議案 サレジオ工業高等専門学校について
- 第 7 号議案 サレジオ小学校・中学校について
- 第 8 号議案 目黒サレジオ幼稚園について
- 第 9 号議案 足立サレジオ幼稚園について
- 第 10 号議案 町田サレジオ幼稚園について
- 第 11 号議案 令和 8 年度定時評議員会の招集について
- 第 12 号議案 その他の重要事項及び報告

評議員会報告

令和7年4月30日（水） 午後4時00分から

出席評議員 13名 議決権行使委任状 4名 出席監事 2名

第1号議案 理事の選任

第2号議案 監事の選任

第3号議案 評議員の選任

第4号議案 その他の重要事項及び報告

令和7年5月21日（木） 午後3時30分から

出席評議員 8名 議決権行使委任状 8名 出席監事 2名

第1号議案 令和6年度事業報告について

第2号議案 令和6年度決算報告について

第3号議案 令和6年度財産目録について

第4号議案 監事の監査（業務・決算）報告

第5号議案 新理事・新監事・新評議員の確認

第6号議案 学校法人育英学院役員報酬規程について

第7号議案 その他の重要事項及び報告

令和7年9月17日（水） 午後3時30分から

出席評議員 7名 欠席評議員 1名 出席監事 2名

第1号議案 会計監査人の選任

第2号議案 サレジオ小学校・中学校について（報告）

第3号議案 その他の重要事項及び報告

令和8年3月17日（火） 午後3時30分から

出席評議員 8名 出席監事 2名

第1号議案 令和7年度補正予算

第2号議案 令和8年度事業計画

第3号議案 令和8年度当初予算

第4号議案 学校法人育英学院寄附行為変更について（収益事業）

第5号議案 その他の重要事項及び報告

令和7年度 育英学院 事業報告書

理事長・理事会

事業計画

【1】 常務理事中心のワーキンググループの運営

以下の案件について、ワーキンググループを継続して行っていく。このワーキンググループでは今年度は特に以下の点について重点的に取り組む。

1. 育英学院設置の幼稚園において、運営形態の再検討を実施（施設型給付幼稚園）

➡令和8年度町田サレジオ幼稚園が施設型給付幼稚園へ移行

2. 目黒サレジオ幼稚園の園舎建て替えについて、遅滞なく進めていく

➡常務理事交代により、法人本部職員が中心となり実施

3. 私学法改正に伴う諸対応の確認・実施

➡定時理事会及び評議員会の移動を確認

4. サレジオ小学校・中学校についての諸検討

➡常任理事会でサレジオ小学校・中学校への特別予算含めて検討を開始

ワーキンググループで取り扱ったことは常任理事会及び理事会の際に報告をし、理事会でより必要な検討を行う。

➡常任理事会で議論を実施、案件によって理事会への報告を適宜実施した

法人本部

事業計画

一般の方針

1. 人的計画について

法人本部では法人全体の人事計画について、引き続き人事企画の性質を持ち合わせて行っていくこととする。高専においては三役を中心とした人事計画を前提としつつ、運営上必要に応じて関わりを持っていく。また幼小中については、事業所ごとが小規模な運営形態な為、中長期的な人事計画や管理職の人事計画を事業所長のみで考えることが困難であることから、法人本部と連携して人事企画の部分を補っていくことを明確にする。また必要に応じてサレジオ修道会と密に連携をとって進めていく。

➡高専の学科再編に伴う人員配置状況について、副校長へ人事配置計画を打診し、設置基準を含めて連携して対応を行った。それ以外、各事業所の人事計画を例年以上に意見聴取を行った。またサレジオ修道会管区長とも、司祭派遣について緊密に連携をとって意見交換を行った。

2. 大型施設設備等について

運営に影響のある大規模な施設設備の購入・更新等について、現場と連携しながら事業計画の段階から携わっていく。また大型工事等については理事会や常任理事会へ報告を行いながら、運営と現場の意思疎通を図り進めていけるように努めていく。直近ではサレジオ工業高等専門学校
の空調改修更新工事や全館 LED 化として挙げられる。

➡今年度、施設設備について大型の案件はなかったが、高専における建物のセカンドオピニオンを法人主導で実施。建物の適切な修繕計画の必要性を高専総務部と連携した。

3. 財務状況の把握について

育英学院全体の財務状況把握は従来通り行っていくが、今後は各事業所に財務状況の確認を行い、事業所長を含めた管理職と経営状況の確認をする機会を設けていくことを検討する。

➡各事業所の校長・園長及び副校長・教頭・主任と必要に応じて連携を行った。しかしながら、財務的な共有については事業所ごとに限定的な対応となった。

4. 内部監査のチーム編成と強化、監事との連携を図る（継続）

内部監査と監事監査を同時期に行い、各事業所の準備負担の軽減を考慮する。また、次年度においても、監事監査を夏期に書面実施を行う。監事のヒアリング時にスムーズな進行を行うために法人本部職員が同席をする。これにより、運営レベルの問題点と実務レベルの問題点を明確に洗い出すことを目的とする。内部監査については監事監査のヒアリングと並行して書類監査を行う。また会計の監査のみならず、経営面や運営面の観点からの監査を模索する。さらに、日常業務の中で各所の決済手順の状況や管理体制について確認を行い、適切な運営体制を整えているか確認を行っていく。

➡監事が入替わったこともあり、監事監査及び内部監査についてより一層の連携に努めた。従前以上に、実地監事監査以外の時期にも、監事と連絡を取り合い、必要に応じて法人本部として回答した。

5. 規則・規程の見直しと整理の準備を行う

規則・規程は運営上、必要なものであるが、時代の流れに併せて、改正することが必須である。しかし、現行の規則・規程について把握困難なものが多数あることから、第一に現状把握を行い、規則・規程の整備に向けて準備を進める1年間とする。また齟齬が生じているものについて運営上問題があれば適宜改正も行っていく。

➡高専で細則等の見直しが行われた。しかしながら法人として規程整備は改善できていない状況にある。社会保険労務士等との連携を視野に今後継続及び速やかな対応が必要であるとする。

6. 法人本部業務の強化のために

法人内の事務経理のみならず様々な事務分野での技術力を高めるため、また最近の社会状況に乗り遅れることのないように法人部職員を研修会に積極的に参加するように促す。また研修会で得た情報を必要に応じて各学校の事務職員へと伝達する(継続)。

新たな人材と共に、学校法人業務と同時に修道会運営に理解ある法人本部の構築を進めていく。

➡私立学校法改正に伴い必要な対応を各事業所へ依頼して実施した。また決算業務においては、更なる決算の迅速化かつ正確さを向上させるため、法人本部主導による明細書の一部刷新を行う等務めた。さらに、理事会審議事項について各事業所へ依頼する情報について、事前に各事業所の状態を理解して明確な回答ができるような準備に努めた。

新たな人材により、通常業務と発生業務を分けて対応することにより、従前以上に発生業務について各事業所に寄り添った対応を心掛けた。

今後、法人本部として財務的支援ができるためにも本部負担金について継続していく。

本部負担金 前年と変更なし

	高専	小中	幼稚園	前年度比
令和7年度	25,000 円	25,000 円	20,000 円	0 円

➡予定通り実施。

7. 人件費

① 役員報酬及び理事長報酬は前年度と同じ処遇とする。

② 事務担当職員の賞与は、法人全体の月数を参考にする。

➡予定通り実施。

8. 機器備品等について

新たな職員を採用したことにより、必要な備品類などを適宜購入して環境整備を整えていく。

➡予定通り実施。

9. その他具体的事業計画

・各事業所との連携

各事業所の校長・園長ならびに事務担当者等と緊密な連携をとり、互いに必要な情報の共有を行っていく。現在、各事業所を訪問する場合は以下の通りである。

① 監事監査・内部監査実施時

➡監査時に情報共有を実施した

② 会計士による会計監査実施時

➡会計業務以外について情報共有を実施した

③ 人事・労務に特別な問題がある場合

➡高専を中心に人事労務問題について対応した

④ 建築や増築等、建物等に特別な変更を検討する場合

➡目黒幼稚園の建て替えについて検討を実施した

⑤ 特別な事情があるとき

これ以外に、法人本部と現場が強固な連携をとれるように、意見共有のタイミング等を検討する。

➡本部人財確保により、発生業務に対して可能な限り対応した。とりわけ各事業所において、業務上、大きな問題が発生している場合は、各事業所への実踏も実施した。

2025年度は、新規採用職員への通常業務の引継ぎ・定着を進める移行期間となった。新入職員へ定型的な業務を移管したことにより、既存職員は各種発生案件への対応に注力する体制となり、例年以上に個別対応業務への対応件数が増加した印象がある。

また、近年は各事業所において突発的かつ個別性の高い案件への対応機会が増加しており、従来以上に柔軟かつ迅速な対応が求められる状況となっている。

今後については、業務上の課題やリスクを早期に把握し、各事業所におけるイレギュラー案件の発生を未然に防止するため、情報共有体制の強化および事前対応の徹底を図ることが課題である。

サレジオ工業高等専門学校

2025 年度 事業報告書

令和 7 年度 教育研究計画の概要

今年度の校長目標は「160 入学から 160 卒業まで」とし、定員 160 名を何としてでも達成し、さらに退学者を減少させる努力を継続します。「選ばれるサレジオ高専」を強く意識し、魅力ある教育活動を展開して、本校の価値や魅力を向上させることで定員数を確保するための取り組みを実施し、在籍者数を 800 名に戻すことを目指します。

令和 7 年度重点施策

(1) 教育・研究力の強化

令和 7 年度は第 6 期中期計画の目標達成を目指し、以下を重点施策として取り組みました。

<1> 教職員によるアシステンツァの実践強化

教職員全体において学生や保護者との関わり方を学ぶ機会を設けることができませんでした。しかしながら発生したトラブルを解決するために教職員間での共通認識事項を明確にし、協力体制を強化することができました。

<2> 退学者の減少

増加した退学者の数を減少させることができませんでした。2025 年度は 25 人でした。各教科の不可率を 5%以内としましたが、実現できなかった教科もあり、未達となりました。また学生支援センターが中心となって合理的配慮の必要な学生をはじめカウンセリングの必要な学生や家庭環境等でサポートの必要な学生の支援に柔軟に対応することができました。

<3> 教育の質保証と向上

令和 7 年の新入生は情報工学科のみとなりましたが、それ以外の学年は従来の 4 学科のままです。各学科は教育の質を維持、向上できるように取り組みました。また教学マネジメント体制を確立し、第 2 メジャーの教育内容の確定を行いました。産学連携支援に向けた業務はイノベーションコモンズが中心となって実施されました。

(2) 社会貢献力の強化

社会貢献力の向上については令和 6 年度に引き続き以下についてさらなる進展を目標としました。

<1> 地域社会との連携

地域連携強化のために小中学生のための特別授業を公開し、依頼された学校に教員を派遣しました。町田市小山地区の町内会、商栄会、商工会議所との交流活動を継続は十分ではありませんでした。地域等の交流活動に係る「サレジオ高専地域交流協議会」との連携も十分に機能していませんでした。

<2> 産学連携の推進

大学コンソーシアムハ王子は、とくに産学公連携（学生研究発表）の活動を通じてサレジオ高専の存在感を示す場となりました。イノベーションcommonsを通じて、地域に立地する企業や自治体との交流・連携を密にし、社会実装教育を念頭においた連携を行いました。

<3> 学校・募集広報の推進

サレジオ高専の存在がさらに認知されるように発信力を強める取り組みを行いました。また募集広報を学校広報と一つにして、新たにされたサレジオ高専、その教育内容、求める中学生像などを発信しました。

(3) 経営力の強化

経営力の向上については令和 6 年度に引き続き以下についてさらなる進展を目標としました。

<1> 教職員の業務遂行能力の向上

SD (Staff Development) システムを運用し、必要に応じて研修を実施しました。必要とされる能力の開発、向上に向けた動きをふまえた人財育成は十分ではありませんでした。また SMS (サレジオ・マネジメントシステム) の見直しと再構築はできませんでした。

<2> 受験者数の増加

令和 7 年度生募集では 113 名の入学者になりました。定員確保ができませんでした。新たに地方入学試験、編入学試験を実施し、2025 年度の 1 学期の成績で受験を認めるなどの新たな取り組みを実施しましたが定員を獲得するのに十分ではありませんでした。

<3> 財務計画

学生の在籍数が減少したために減収でした。予算では各部署 1 割強の削減を行って予算立てをしましたが、昨年度は赤字予算でのスタートでした。緊縮財政政策を進め、新入生の定員確保を行い、学校設備に関しても中期計画を立案し、光熱費高騰などの厳しい現実があるものの弾力的な資金運用とムダの削減を行うことで健全な財務を目指しました。教職員の協力もあり、予算の余分を繰り越すことができましたが、まだ努力の余地がたくさんあります。

(4) 特記事項

<1> 司牧目標 (サレジオミッションの実践)

サレジオ会の教育方針の基盤であるキリスト教的価値観を浸透させ、それに基づくドン・ボスコの精神の実践を強化するため以下のことを実施しました。

- ・月 2 回のチャプレン訓話
- ・モーニングトーク

- ・月例ミサ、チャペルの開放
- ・掲示板を活用した啓発

<2>周年記念

- ・移転 20 周年と法人開設 90 周年の記念事業を実施しました。

サレジオ小学校・中学校

I. 令和7年度教育目標

1. サレジオ家族ストレンナ

「希望に錨をおろし、ともに歩もう」

これはサレジオ家族全体のための目標であるが、サレジオ会日本管区が2026年2月8日に来日100周年を迎えるにあたってのテーマとしてもふさわしいものだと思われる。100周年を迎えるにあたって、児童生徒、教職員、保護者が心をひとつにして、ともに歩いていくことが大切である。

そこで、宣教師団の団長であるチマッティ神父様の特徴を取り上げて、私たちが希望をもって歩いていくうえでの道標(みちしるべ)としていきたい。

a. 快活さ Allegro (晴れやかな心)。いつもどんなときでも晴れやかであることを心掛けよう。

b. 謙遜さ Niente ti turbi (心配しなくていいよ!、安心して!)。

神様の恵みに信頼しよう。

2. 司牧部

①カトリック学校としてのアイデンティティを深めるために。

a. 道徳・倫理授業の充実 **よく実施できた。**

b. 祈りの機会を増やす **週1回の朝礼、道徳・倫理の授業、司牧部行事など。**

c. 宗教行事での児童生徒の奉仕の機会を増やす **よく実施できた。**

d. 学校外に出ていく機会を増やす(ボランティア活動など) **お隣の老人ホーム訪問(小学校の音楽クラブ、中2のハンドベル)、学校周りの清掃活動
赤い羽根共同募金。**

②信徒児童生徒、また、家族がキリスト教に関わりのある児童生徒の司牧

a. 集会を定期的に持つ **実施できた。**

b. 年2回程度の練成会・巡礼を実施する **実施できた。**

II. 児童生徒募集

1. 在籍数(令和8年3月31日現在)

小学校	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	合 計
令和 7 年度末	14	14	16	9	17	11	84
中学校	1 年 生		2 年 生		3 年 生		合 計
令和 7 年度末	24		26		24		74
	小 中 合 計			158			

※ なお令和7年8月30日の保護者会及び学校HPにおいて、以下の内容を公表した。

サレジオ小学校は令和8年度入学生を最後に募集停止、サレジオ中学校は令和11年度入学生を最後に募集停止、両校ともに令和14年3月31日をもって休校とする。

2. 令和 7 年度相談会・広報

小学校

「東京都私立小学校展」、「中央線沿線私立小学校合同相談会」、「西武線沿線私立小学校合同相談会」、「キリスト教学校合同フェア」、校内学校説明会（4 回）

外部相談会には不参加。校内説明会は、3 回実施。

中学校

「東京私学第Ⅱ支部合同説明会」、「東京都私学展」、校内学校説明会（3 回）

全て予定通り参加し、実施した。

Ⅲ. 令和 7 年度重点課題

1. 教職員が働きやすい、働きたいと感じられる環境づくり。コミュニケーションのさらなる強化。

個人面談を実施し、先生方の将来的な希望や思いをお聞きした。

2. 若手教員が増えたので、カトリック精神やサレジオ精神の浸透を図る。そのために各研修会を利用したい。

関東地区カトリック小中高連盟教職員研修会へ参加。

3. 設備、環境整備。経年劣化などによる更新や修繕が必要。

キュービクル更新工事。中学棟壁面補修工事。大樹剪定。

Ⅳ. 人事

新たな人事はなし。

Ⅴ. 主な工事・修繕などの予定

①キュービクル更新工事 実施。

②中学棟壁面補修 実施。

③造園管理 実施。

④建具工事 実施。

⑤タブレット（2 学年分） 実施。

⑥中庭タイル修繕 実施。

⑦その他

「スマートメーター・エリア」を職員室に設置し、電力使用の見える化を図った。

Ⅵ. その他

① 節電やペーパーレス化に意識して取り組む。

目黒サレジオ幼稚園

サレジオ家族 年間目標 (Strenna 2025)

「希望に錨をおろし、ともに歩もう」

I. 教育方針

【園のことば】 きよいころ げんきなこども

(1) 教育目標

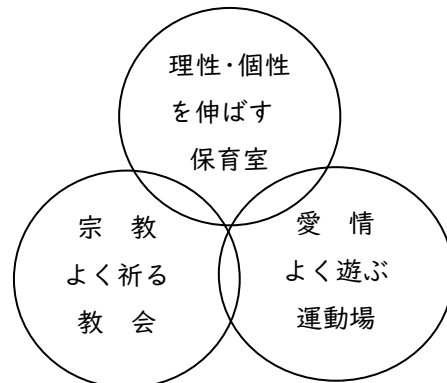
- ・キリスト教の価値観と創立者ドン・ボスコの教育理念に基づき、自然豊かな広い園庭を中心とした環境と暖かい家庭的雰囲気の中で、のびのびとした活動を通して子どもたちの心の教育に力を入れる。
- ・ドン・ボスコの教育理念である「愛情（信頼）」「理性（納得）」「宗教（祈り）」を根本にして、家庭との密接な連携を通して子どもたちの成長に寄り添う。
- ・幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心を身に付け、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指し、誠実な社会人になるように育成する。

=学年のねらい=

- | | | |
|-------|-------|---|
| くすみれ> | (3歳児) | 様々な環境に慣れ、園生活を楽しむ。 |
| くゆり> | (4歳児) | 集団生活に必要な態度を身に付ける。
互いの気持ちを伝え合いながら友達と関わる。 |
| くばら> | (5歳児) | 状況の判断力を養う。感謝と思いやりの心を育む。
好奇心を持ち、何事にも意欲的に取り組む。 |

(2) ドン・ボスコの教育の要約

子どもを教育するには、しっかり組み合わせた輪のような3つの場所が必要である。



----- 具体的にドン・ボスコの教育における宗教教育を実践するために

以下のようなことに取り組んでいく。

- ① 日常の保育の中での祈り、シスターによる宗教の時間、聖堂訪問など
- ② 行事の中で：聖母祭、クリスマス会、創立者ドン・ボスコのお祝いなど
- ③ 保護者の希望者に向けて園長による月2回の聖書と祈りの集い、その他の機会を設ける

(3) 教師（保育者）のあり方

1. 園の教育理念を深め、共通理解のもとに保育に取り組む。
2. 一人一人の園児に積極的に関わり、子どもの状況をよく把握する。
3. 子どもたちがのびのびと活躍できるような環境の整備を心がける。
4. 思いやりの心とけじめのある態度を、教師自らが手本となって示す。
5. 職員・園児・父母の相互間の報告、連絡、相談を密にし、常に反省する姿勢を持つ。
6. 園長が毎朝礼時にカトリック、サレジオの精神を伝える短い話を行う。
7. 副園長による職員の要理を定期的実施し、キリスト教の素養を培う。
8. サレジオ教職員講座の内容を職員と分かち合い、サレジオ教育の理解を深める。

⇒日々移り変わる社会の変化、家庭・保護者の変化に対応するために、新しい取り組みに挑戦する意識が職員間でさらに強まってきたのを感じる一年となった。それは募集活動における危機感の結果でもある。キリスト教的精神、また創立者の精神を学ぶ宗教的・教育的なアプローチも継続的な積み重ねを行うことができた。

(4) 家 庭

1. 年頭、また行事参加などの機会に、教育理念を全保護者に伝える。
2. 家庭教育・幼稚園教育の大切さを理解して頂くよう、機会ある毎にお願いする。
(家庭と幼稚園の教育観の一致、協力をお願い。ー公共ルールや、躾などー)
3. 親自身が子どものお手本になるよう心掛けていただく。
4. 保護者のライフスタイルの変化に理解を示しつつ、子育ての環境を共に考えていけるように園として導き、サポートする。

⇒保護者のライフスタイルの変化に合わせて、保護者の会の在り方を一新し、役員の方々と新しい取り組みに挑戦した。年度初めのオリエンテーション、保護者総会の形も柔軟に変更し、クラス委員も廃止して行事の手伝いには希望者を募った。不安もあったが、行事等の中でより自発的かつ積極的な保護者の協力を得られる実感も得ることができた。保護者同士の直接的な交流、連携の在り方についてはますます難しくなっている現状があるが、工夫して課題を解決していく必要がある。

(5) 運営・経営における時代のニーズへの対応

保育の充実・子育て支援の強化

1. 以前は時差登園、降園としていたが、保育時間延長の要望にも応え、2025年度は全学年同じ時間に登降園とする。また降園後の園庭開放の機会もより多く設ける。
⇒登園・降園時間の統一に伴う大きな混乱はなく、保護者、園にとって大きなメリットとなった。一方で新しく始めた満3歳クラスは様子を見ながら進めたこともあり、ここでまた登降園時間の時差が生じてしまったので是正する必要が出た。園庭開放の機会増大も良い成果を収めた。
2. 預かり保育のニーズに対してうまく対応できるよう申し込み方法などを含めてさらなる改善を加えていく。遅い時間に対応できる職員の確保に引き続き努めていく。夏期預かり保育に関しては熱中症対策も含めて、運営方法を改善していく。
⇒保護者のニーズに応え、学期始めや終わりの預かり保育の日数を可能な限り作るように改善した。職員に関しても遅い時間に対応できる人材をさらに採用し、シフトに余裕を持たせることができた。夏期預かり保育においては昨年同様、暑さ対策の難しさを痛感する結果となった。
3. 課外スポーツクラブ、サッカークラブ、課外英語教室を充実させ、引き続き課外教室前後の預かり保育利用もできるように対応する。合わせて空き教室のさらなる活用方法を検討していく。
⇒課外教室については常にキャンセル待ちが出ている状況であり、さらなるニーズを感じた。一方で課外活動を実施する業者のサービスの質や施設管理についての課題もあり、職員の負担が増えるケースも見られた。
4. 注文弁当のサービス向上に向けて業者との連絡を密にし、園の方針に合う形でかつ保護者のニーズに応えられるよう努める。
⇒前年度の課題（サービスの質の低下）を受けて、また新しい業者に変更した。アレルギー食対応も可能になり、保護者にも職員にも喜ばれ、受注が増えた。園児の半数以上が注文弁当を利用しているという現状に時代の変化を感じている。
5. アプリを用いた保護者と園との相互連絡ツールについて、園業務の効率性と保護者の負担軽減のために業者との連携をさらに進めていく。
⇒保護者のアンケートにアプリを活用し、また「園だより」などの手紙類をデータで送るなどペーパーレス化の取り組みを推進した。まだ利用していない機能の活用についても職員の意識が向上してきている。
6. 新しい体制になった保護者の会の役員の方々と協力して有意義な会の運営に努める。行事や園の取り組みについて、保護者の積極的な参加を促していく。
⇒(4) 家庭でも触れたが、昨年度の改革を経て今年度から保護者の会の在り方を一新した。年度初めの総会を簡略化し、クラス委員と行事手伝い係等の役割

分担制を廃止した。行事の手伝いはボランティアを募り、卒園生保護者も含めた多くの保護者の積極的な協力を得ることができた。役員の負担も大きく減らすことができ、役員担当の保護者からも好評を得た。

募集対策

1. 魅力ある園生活をアピールするため、上に挙げたような子育て支援を意識した取り組みをさらに継続させ、必要な改善を施す。

⇒引き続き見学等の問い合わせには速やかに対応し、随時転入ができるように最大限の配慮を示した。園庭開放の回数、時間も増やし、多くの未就園児親子に実際に園に来て良さを感じてもらえるように努めた。

2. 従来の見学会や説明会のあり方を見直し、子どもたち、保護者に多く足を運んでいただき園の魅力がより伝わるように工夫する。

⇒見学会の在り方を変え、回数を増やして少人数での対応にしたことにより、保護者の声をより拾えるようになり、ニーズをより感じる事ができた。パンフレットだけでなく、園を紹介するチラシやポスターを作成し、近隣の児童館などに掲示してもらい未就園の親子に届くよう努めた結果、多くの親子が園に足を運んでくれた。

3. 未就園児親子対象のプレ保育を新年度も継続しつつ、年度途中からではあるが満3歳クラスをスタートさせる。また、未就園児親子の体験保育の取り組みを行う。

⇒募集に関する危機感から、予定を前倒しして年度途中から始めた満3歳クラスは、概ね満足した成果を収める結果となった。担当職員も良く準備して新しい挑戦に臨み、職員の意識向上、園全体の雰囲気の良さにもつながった。親子プレ保育は前期で終了したが、さらに新しい取り組みとして、未就園児親子交流の場「されじおひろば」を始めたところ、0歳児からの親子がたくさん園を訪れてくれた。この結果を受けて1学期のみの予定だった「されじおひろば」を2学期以降も継続し、毎回盛況となった。

4. 小学校受験を検討する保護者にも意識を向け、隣接するサレジアン国際学園目黒星美小学校との連携、協力を今後も模索し、実践を継続していく。具体的には、年長組の星美小学校訪問体験、小学校の先生を園に招いて保護者への教育講話等を継続し、新たに園での学校説明会の機会を模索する。

⇒年長組の星美小学校訪問、小学校のクラブ活動へのグラウンド提供など、目に見える形での良い連携を継続して行った。年度末近くに実施していた小学校教諭による教育講話は、今年度から位置づけを変えて1学期に保護者向けの学校説明会として実施したことで、園と学校のつながりをより強く示すものとなった。

5. 教会での祈り等を通した宗教教育や自然豊かな広い園庭など、園の大きな魅力をPRするため、ブログやHPをより一層活用していく。

⇒今年度初めて広報を担当する職員を定め、インスタグラムの開設やチラシの作

成、近隣への配布等、園のPRに力を入れてもらった。効果は大きく「されじおひろば」や園庭開放、また運動会や夏祭り等の行事に未就園親子が多く訪れてくれた。HPはリニューアルしたものの、更新頻度は少な目になり、活用法については次年度以降の要検討事項となった。園長によるブログは継続的に行っており、保護者の情報収集の良い材料となっているという実感を得ている。

施設設備関係

1. 施設の老朽化が加速し、安全面での不安がある為、営繕の職員が常に園内を巡回し、早急な対応をしている。教職員一同綿密に連携をとり、引き続き園児の安全に努めていく。

⇒今年度も多くの修繕必要箇所が出て、その都度対応した。職員全体で園舎や園庭の安全点検を行い、細かいところまで修繕箇所のリストを作成し、できるところから修繕を行った。9月のゲリラ豪雨の際には大きな雨漏りが生じて預かり保育中の子どもたちの安全に大きな不安があったが、職員たちが連携し無事に対処することができた。

2. 改善されたwifi環境をより活用し、講堂や保育室の音響設備等の充実、また保育におけるICTの活用も引き続き模索していく。インターネット、アプリを活用した職員の職務効率化をさらに一歩前へ進めていく。

⇒保護者への連絡、遠足などの行事の申し込みやアンケート等、ネットを活用した方法が通常化してきているのは良いしるしと感じる。法人本部の協力による職員のオンライン会議も大いに活用した。一方で、ネットやアプリ等の保育への活用は職員個々の技量によるところもあり、改善の余地があると感じる。

3. 園舎建て替え計画を少しでも前に進めるため、引き続き法人本部の協力のもと定期的かつ頻繁に会合を重ねていく。

⇒継続して園舎建替え計画を進めていくことが急務であり、法人本部の協力の下で会合を重ねた。今後の募集対策にも関連して職員から建替え計画の進捗報告を望む声が上がリ、法人本部より職員に対して計画の概要と進捗についての報告があった。職員は依然として設備の安全面での不安を感じているが、この報告により多少の安堵感と期待感を得るものがあつた。

職員の働き方、質の向上

1. 子育て世代の教員が増えている現状を踏まえ、職員相互の働き方、有給休暇の取得などの改善がより求められている。今年度も継続してこの取り組みをしていく。

⇒有給休暇の取得については継続的、積極的に推進された。また情報の共有化を進めて休暇取得における職員間の不均衡がなくなるように配慮がなされた。次年度は長期休暇中の預かり保育を実施するにあたり、その時期における働き方の意

識変革が求められている。

2. 幼児教育現場の質の向上、教員の意識のさらなる向上を求め、引き続き研修の機会を活用する。

⇒個々の職員の積極的な研修参加を促し、その情報を共有することで園全体の保育の質向上を図るができた。また園内研修では前期には園に来ている体操の先生の業者から先生を招いて保育スキルに関する研修を、後期には星美小学校の増田健先生を招いて職員への講話を行うなど、園のネットワークを生かした研修を実施した。

3. 建物設備の老朽化等による子どもの安全への影響を考慮し、防災、防犯についてのマニュアル作成、訓練の実施について、実践を繰り返しながら見直しをしている。

⇒今年度も保育の中で子どもを交えての防犯訓練を実施し、より意識を高めた。また警察の方を招いて職員での防犯訓練を行い、普段から行っている適切な対処方法の実践について高評価をいただいた。

Ⅱ. 財務関係予算方針

[基本方針案]

園舎建て替え計画

1. 園舎の建替え計画がなかなか進まない現状を打破すべく、具体的に進めていきたい。本部と連携して頻繁な会合を実施していく。合わせて、今後の幼稚園運営の在り方についても引き続き検討を重ね、サレジオ修道会と連携し計画を作成していきたい。
2. 着工：3年以内
3. 工事期間：約1年
4. 総建築費：未定

⇒上記の通り、建替え計画にあたり、法人本部との会合が継続的に実施され、また今年度は職員にも進捗報告がなされ、情報共有することで今後のよりスピード感を持った対応を期待する流れとなった。また、サレジオ修道会との会合も数回実施され、計画実現に向けて進んでいく期待が生まれている。

地方公共団体補助金

1. 東京都私立幼稚園経常費補助金については、園児数減少、クラス数減少を算定の上、減額して予算に計上する。令和7年度も夏期預かり保育の日数を15日間とし申請する。また、特別補助についても積極的に取り組み、補助金を獲得していきたい。

⇒前年度とほぼ同額を獲得できた。

2. 東京都補助金、私学財団補助金も適宜申請していきたい。

⇒予定通り獲得できた。

3. 目黒区の子育て支援補助金について、区の担当者との相互理解を深めてより良い形で活用を目指したい。

⇒昨年度と同額を獲得できた。

経費について

1. 人件費については、特別な配慮が必要な園児も増えている為、補助の教員を必要に応じ配置している、今年度も必要な経費を計上する。

⇒新しく始めた満3歳クラス、また預かり保育のニーズに合わせた職員補充の必要を感じた。また将来を見据えて新卒の募集をかけ、数年ぶりに採用することになった。必要な人材配置は常に考えていくが、経営的な観点からも都度見直しを行いながら進めていく必要を感じている。

2. 引き続き、修繕が必要な箇所が多くあると見込まれ、必要な経費を計上する。

⇒建て替え計画の実現を見据えて判断をする必要を毎年感じているが、建物の老朽化が進み、常に修繕箇所が出て来ているのが現状である。

足立サレジオ幼稚園

令和 7 年度事業計画

I. 教育目標

- ☆ 神さまに愛されている子どもたちとともに生きる幼稚園を目指す。
- ☆ 足立区江北の地域においてサレジオ幼稚園がイエス・キリストの愛を告げる場所になることを目指す。サレジオ家族として「ドン・ボスコの夢&私たちの夢（サレジオ家族令和六年度目標）」を私たちの子どもたちと共に目指す。
- ☆ 地域社会の子育て支援の拠点の一つとして、教育・保育において有益な支援を行う。

II. 目標達成の方法

A. サレジオ会の事業として、ドン・ボスコの教育法の三本柱である「宗教・愛情・納得」の実践に励む。

① 宗教、道徳教育に力を入れる。

- ・ 本年のサレジオ会のストレンナ（年間目標）がサレジオ家族として「ドン・ボスコの夢&私たちの夢」の実現に向けて、子どもも大人もこと、つまりサレジオ幼稚園の園児と職員たちが社会にとって良い影響を与える存在となるように導く。この目標を実践できるように園児たちが理解できる言葉、考え方に置き換えて保育において実践する。
- ・ 神さまの存在が信じられるように、教会でのお祈りやお話の中で導く。
- ・ 自然や音楽、味わうものなどに感動できる子どもに導く。（SDGs）
- ・ 神さまが造られたこの地球という世界を大事にする気持ちを育てる。

② 常に子どもに寄り添い、愛情に満ちた指導をする。

- ・ 愛され、大事にされている実感が子どもに伝わるようにかかわる。（優しい言葉かけ、穏やかな振る舞い、優しい視線など）

③ 子どもが納得できる導き、かかわりを行う。

- ・ 子どもの話・気持ちをよく聴き（理屈に合わなかったとしても）、状況を把握して子どもの納得が得られるように、わかり易く優しく導く。（子どもなりの考え方に一定の配慮をする）

サレジオ会来日100周年ということもあり、子どもたちにドン・ボスコの他にチマッティ神父さまの話をする機会をつくることができました。

子どもの想いをくみ取り寄り添いながらも手を出し過ぎずに見守るなど学年、個別によって対応ができたと思う。

B. 小学校に入る準備をする。地域社会に仲間入りする準備をする。

- ① 家庭での少人数の生活体験から幼稚園のクラスの友だちとのかかわりに変化する子どもたちを、忍耐強く支え導く。

- ② 自分の気持ちや考えを上手に伝えられる子ども、相手の気持ちや言葉を上手に受け止められる子どもを育てる。
- ③ 日常の出会いを通して進んで挨拶ができるようにする。
- ④ 場面に応じた適切な言葉使いを教える。

近隣の小学校の行事に参加したり、運動会のリハーサルの見学をすることができました。小学校への不安から期待へ気持ちが大きくなっていったと思う。各小学校へ個人の様子を伝えることができた。

進んで挨拶をすることができるのはまだ少数なので引き続き取り組んでいきたい

Ⅱ．計画の実践

Ⅰ．保育活動

- ① 今年度も満三歳児受け入れを実施する。

*すみれ組

- ・今年度もすみれ組として活動する。無理のないように子ども達の成長に合わせて保育をしていく。まず、幼稚園は安心できる場所で楽しいということがわかるように関わっていく。遊び中心の保育でもきちんとルールを伝えていたり基本的な生活習慣を身に着けていく。行事参加についても昨年度の実践を振り返りながら成長に合わせて参加していきたい。

*ひよこ組

- ・今年度も満三歳と週5回の合同保育を行う。すみれ組と同じ保育室で目標も同様にしていく。

年間カリキュラムを計画しながら月案、週案と子どもの姿をよく把握して計画を行うことができた。補助が必要な園児が数名いた為、教員が4名体制で行ったが大変な時もあり、職員室で過ごすなど主任や園長も協力しながら行っていた

*もも組

- ・今年度より改に入園前の2歳児の親子にゆっくり子育てをしながら集団生活が送れるように週1回2時間の保育を行う。

入園が決まる11月下旬がらは分離保育を行い安心して幼稚園生活が送れるようにしていった。しかし、週1回だと登園回数が少ないので慣れるのに時間のかかる園児が数人いた。

*年少ばら組

- ・昨年度すみれ組での経験を活かして生活面など自分のことは自分で行うことができるように援助していく。
- ・年少組から入園する園児が7名いる為、新級した園児と楽しく過ごせるように

援助していく。人数も多くなるので子供たちの気持ちをキャッチできるよう補助の先生と連携を取りながら保育をしていく。

- ・自我が芽生えて友だちと意見の相違からトラブルになることも多くなっていくと思うので先生が仲裁に入って解決方法を知っていき相手に気持ちを伝えることの大切さを学んでいく。

*年中ひまわり組

- ・自立心を高められるよう励ましたり保護者とも連絡を取り合っていく
- ・自意識が出てきて他の子どもとの衝突がよくおこるので、友達とのかかわり方を引き続き学ぶ時期である。
- ・対人関係で成長が著しい時期である。肯定的な関係作りに導きたい。

*年長ゆり組

- ・年長の意識が出てきて小さい子どもたちと優しく関わりたい意識が増えてくる（縦割り保育）。また小学校への不安を抱えた時期でもある。挑戦と成功、失敗を繰り返す中で自分を信じていける心を育てたい。
- ・園の中心になっていく学年なのでクラス内で沢山のサークルタイムを実施して行事の決め事を子供たちの発信から進められるように、また計画、実践、成果と繋がるように援助していく。

*各年齢の発達支援においては、幼少期の特性を考慮して対応し、過度の要求は慎む。

*バス通園の安全管理に努める。

- ・ドライブレコーダー、バスの安全装置などを装着することはもちろんのこと、運転手、添乗職員の安全意識を高めて事故を防ぐ。バスが園を出発する際は職員が1名道路まで安全を確認しながら誘導をする。乗車した園児を職員2名で必ず確認をすること。降車ミスのないように十分気を付ける。

*防犯意識をもって保育にあたる。門の施錠を確実に行う。

実施できました。引き続き取り組んでいきたいです。

② 年間行事

- ・行事は前年度の反省を活かしながら子どものやりたい意見も取り入れながら実施していく。行事を通して季節を感じたり達成感を味わい成長に繋げたい。夏場は以前より暑さが厳しくなっているので、夕涼みや運動会の日程に悩みながら決めたので子どもたちの健康に気をつけ暑さ対策を徹底する。
- ・カトリック足立教会と共催のバザーは意思の疎通を図りながら実施に向けて動いていきたいが、富くじ的なバザー券の販売を希望する教会側と折り合いを付ける課題がある。昨年度は実施せずにバザーができた。

行事の取り組みはクラスの状態や反省を活かして取り組むことができた。夏のプールや運動会など暑さ対策で悩むことが多くあったので幼稚園ができることの可能性を探しながら健康に気を付けて実施していきたい。

③ 縦割り保育

- ・幼稚園に入園したての子どもたちは自分の家族以外の人や子どもたちとの接し方をまだよく知らないなので、園児たちがその接し方を学ぶ良い機会となる。
- ・縦割り保育は自他の区別や互いを思いやる情操に大変有効なので、年間を通して実施していきたい。
- ・職員の発案や子どもの希望を通して楽しい保育を目指す。
- ・大きな行事に左右されない火曜日などに実施していく。
- ・子どもたちも楽しみにしているので、大事な保育として考えていく。

始めは積極的に関われない様子も見られたが、少しずつ年長が年下のお世話をしたり、一緒に遊ぶ機会が増えて交流をたくさんもつことができた。

④ 預かり保育の実施

- ・今年度より預かり保育の時間を通常保育の日には、保育時間終了後 14:30 から最長 18:00 まで実施する。
- ・昨年度 9 月から開始した朝の預かり保育は利用者は少ないが就労している方が利用している為、引き続き 8:00 から保育開始時間まで実施する。
- ・長期休暇中の預かり保育は夏休み、冬休み、春休み共に 8:00 から 18:00 まで実施する。
- ・料金を通常保育後の預かり保育、長期預かり保育ともに定額を実施する。

利用者が増加していき長期預かりは 2 クラスに分けて実施した。それだけ保護者のニーズがあるのだと思う

⑤ 保育参観の実施

- ・廊下から目隠しをして様子を見てもらうことができたので引き続き保育中の我が子の様子を見たい保護者は多いので、できる限りその要望に応えて実施していく。

⑥ ・募集のためには HP などを充実させていく。特にスマートフォンに対応した HP 作る。現在の HP は知りたい情報をキャッチするのがわかりにくいのでできたらリニューアルできるようにしていきたい。

- ・普段の保育の様子をInstagramで配信し、リアルな保育を見てもらう工夫を継続していく。

今年度も実施できなかったので来年度こそはリニューアルしたい。

SNS は努力して発信することができた。

- ⑦ 現在実施している 0.1.2 歳児のいちごクラブの他に親子で幼稚園に来園してもらえる活動としてベビーマッサージ教室の開催を実施したいと考えている。

また、在園時の課外活動を増やしたいと考えている。（公文や人気のピアノ教室の回数の増加等）

ベビーマッサージの開催はできたが、参加者がほとんど在園児の保護者だったので地道に活動をして新しい親子の参加を増やしていきたい。

公文は条件が合わなくて実施することができなかった。

2. 職員対応ならびに財務関係予算の方針

① 職員の確保

- ・保育の中で生き生きと働き活動する職員の動画や声を HP などに発信していく。
- ・職員の確保はまた離職者をなくすことが大事であるので、離職に繋がらないように長く勤められる職場の環境（勤務内容、勤務時間、給与）を真剣に整備する。
- ・兼務教職員がぎりぎりの人数なのでできたら 1 名増やしたいと考えている。

本務教員、兼務教職員の確保ができなかったのでぎりぎりの人数は変わらなかった。令和 8 年度は必ず採用に繋げたい。

② 有給休暇の取得の改善

- ・職員待遇も大事なポイントなので、早めの帰宅ができる体制を作り、有給休暇の取得をしやすくする。昨年度は長期休暇中の預かり保育時間が長時間になった為調整が難しかったが、今年度は本務教員以外に兼務教職員 2 名が担当に加わるので取得しやすくなることを期待したい。
- ・保育後の清掃をシルバー人材センターに委託して、打合せ時間を短縮する為に、アプリの業務ボードの活用ができていますので引き続き職員の負担を軽くし、早めの帰宅に繋げる。

有給取得は個人差があったので少なかった教員には声を掛けて取得してもらったもう少し取得しやすい環境作りを考えていきたい

退勤時間も個人差があるように感じた。それが慢性的になっているので意識をもてるように声を掛けていきたい

③ 職員研修

- ・支援の必要な園児たちのために、足立区主催の研修会にできるだけ参加する。
足立区は年齢別の研修や絵本に関する研修等内容も様々なので調整しながら参加していきたい。他に私学財団の研修やサレジオ養成講座、カトリック研修、協同者の集いに参加をする。
- ・保育内容も日々変わってきているので必要な研修会に参加し、他の教員にも共有する。

年齢別の研修の参加やサレジオ家族教職員講座を受講して分かち合いまで行うことができた。

- ④ 保育室入り口に雨が降りこむことがあり、西日が射しこんで保育室が暑くなるため、増築と一緒にオーニング（日よけシェード）工事を実施する。

実施できました。

3. その他

- ① 引き続きカトリック足立教会とのコラボレーションで奇数月の第二土曜日に「オラトリオ足立」を2時間ほど行う。

幼稚園の園庭と教会の集会室を開放して、近隣の子どもたちや大人たちに来てもらう活動で募集のためにも、幼稚園と教会があり誰でも行ける場所(子どもの居場所)としての幼稚園を認知してもらう作戦。今年度も実施する。(保険にも加入している)

野口神父さまと信者の方を中心に実施していました。

町田サレジオ幼稚園

サレジオ家族 年間目標 (Strenna 2025)

「希望に錨をおろしともに歩もう」

町田サレジオ幼稚園 年間目標

愛されていることを実感できる教育を行おう

I. 教育目標

創立者ドン・ボスコの教育理念である 愛情(信頼)・道理(納得)信仰(祈り)を基本とし、家庭と密接に協力しながら種々の経験を通して生きる力を育む。

南多摩の自然に囲まれた環境の中で明るくのびのびと活動し明るい心、親切な心、素直で正直な心を育てる。

幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指す。

1. 隣接する小山内裏公園や白山公園、広くて安全な園庭での戸外遊びを通して自然とふれあい、からだを使って健康に過ごす。
2. 定期的に異年齢間の交流を持ち、年長者は年下をいたわる心、経験したことを伝え手本となる行動をするように努め、年少者は年上への憧れから挑戦しようとする気持ちを育てる。
3. 発達が遅く、ケアの必要な数名の園児への対応とその他の園児のケアのバランスを考え、サポート体制を整える。

※ 3については必要に応じて、サポート体制をとる。なお、サポートの必要な園児については専門機関（島田療育センター、町田市発達支援センター、相模原市発達支援センター、相模原市協同病院、コペル リタリコ民間の発達支援センターなど）とまた保護者との連携を取りながら教育を行った。

保育内容他

① 保育内容 行事

- ・興味関心があることに探求心を持って取り組み、創造性を広げる活動ができる環境づくりや、高専イノベーションコモンズとの連携の中で様々な体験を通して探究心を育てる。(STEAM教育 非認知の力を伸ばす)
- ・行事ごとに目的、手立て、流れ等の評価、反省をし、マナーにならずかつ良いところは継続し次の活動に生かす。(行事の数、進め方、制作の見直し)

・様々なスポーツの経験

プロサッカー プロラグビー プロ野球 デフサッカー

② 地域との交流

高齢者施設の訪問（歌 ダンスのプレゼント ふれあい活動）

年長児 小学校訪問 教会訪問 カトリック園児との交流（光塩日野幼稚園）

町田市焼却所見学

年中児 東京消防庁第九方面本部消防救助機動部隊見学

・縦割りクラス活動の継続と発展

2歳児から5歳児まで1年を通して週1回行っている縦割りクラスでの活動の評価反省をもとに、さらに楽しく、自由に活動できる時間と空間を確保し、自らやりたいことを求め活動を展開する。異年齢のふれあいの活動をさらに発展させた。

③ 情報発信

・園生活の中で生き生きとして活動する子どもたちの様子を保護者のみならず多くの人に周知するためにホームページやInstagram、ブログにて発信する。

・出欠席の連絡、預かり保育委の申込、給食の申込などを専用のアプリで行い園だより等の案発信文書は保護者にはメールでの配信をすることで省資源に努めた。

④ 宗教

・常に神様に守られていることを実感し、神様と周りの人に感謝する心を養う

⑤ SDGsへの取り組み

・年長組を中心に年間を通してひき続き活動する。

・世界の貧困、地球の温暖化について子どもたちにわかる範囲で伝え、将来の夢を

実現するためにも未来の地球に関心を持ちできることから取り組んでいく。子どもたちへ働きかける前に職員の意識を上げ、特に身近な省エネ（節電、節水）を教師が進んで取り組む。（目に見える形で共有）

・食ごみからの堆肥→畑→野菜栽培（コンポスト利用した土壌づくり）

・ごみ講座を受ける（町田市環境資源部3R推進課に依頼）

・デフリンピックに興味を持ちデフサッカーの選手との交流（聾の方との交流）

⑥ その他

・毎月一回避難訓練（うち一回は消防署立ち合いの上の総合訓練）

・年一回引き取り訓練

・起震車体験

・防犯訓練

・交通安全訓練（警視庁騎馬隊来園 騎乗体験）

・AEDの保管場所の確認（年長）

＜継続事項 感染症や季節型インフルエンザ等への対策として＞

※ 手指消毒

※ 遊具や保育室および共有箇所（トイレ、手洗い場、階段、玄関等）の丁寧な清掃

※ 適切な換気（空気清浄機を各保育室に設置済）

ー 募集に関して ー

2026年度入園の募集は満3歳児30名 3歳児20名を目標に募集活動を展開した。2019年10月からの保育の無償化以降、年を追うごとに「満3歳児」の受け入れが町田市、八王子市、相模原市周辺地域の主流となっている状況を鑑み、2023年度より「満3歳児クラス」を開設した。年々希望者が増加している。2025年度は年度初めから単独クラスにて運営し4月より満3クラスをスタートさせた。また年度途中で満3歳になる2歳児も希望者は年度の初めから受け入れたが月齢の低い3月生まれが2名おり、午後の活動は月齢に応じて対応していった。

未就園児はプレクラス（親子分離）としてのこぼと組週2回のクラスを1クラス例年通り行う。カンガルー広場（保育室開放）は毎日開設。地域の子育ての支援としていろいろなバリエーションのある教室を開き参加人数の増加に取り組み、より早い段階で幼稚園を知り本園への興味や関心を持ってもらう。（0歳、1歳）

2026年度入園数 在籍数

満3歳児 16名

3歳児 36名

4歳児 33名

5歳児 28名

合計 113名

＜園児募集につながる子育て支援の充実＞別紙参照

① バリエーション豊富な子育て支援

0歳児から在園児、卒園児（兄姉）をも含めた幅広い子育て支援の実施

② 園児募集に直結するプレスクールの充実とともに子育ての相談に随時応じ保護者との信頼関係を作る。

③ 園庭開放、保育への参加、保育室開放等を毎月切れ目なく行い、なおかつプレスクール以外の無料で実施している活動に関しては町田市子ども生活部子育て推進課が毎月発行している町田市子育てひろばカレンダーに昨年度同様記載を依頼する。（町田市公式ホームページにもリンクしている）

④ 八王子の子育て施設に毎月の未就園児の予定をおいてもらう。（八王子市南大沢子育て支援センター）

- ⑤ 在園児には預かり保育の充実（専任の担当を配置）
年々増加している就業している保護者のニーズにこたえて早朝保育（保育開始前7：30から9：00まで）また長期休み中の預かり時間も同上とする。降園後は18：00まで。14：00から16：00までは複数の担当の配置をし見守りを手厚くした。
- ⑥ 地域のイベント（商工会の祭り等）に可能な限り協力し、本園の認識を広めるとともに積極的に会議に出向き情報収集に努める。
- ⑦ 地域の子どもセンターで行っているイベントに園長が出向き地域の乳幼児やその保護者と交わりを持ち本園の特徴を説明し興味を持ってもらう。
- ⑧ 町田市堺地域子育てネットワーク会議および研修に参加し、地域の中の幼稚園として子育て環境や子育て支援についての意見交換をし、園の存在価値を広める。
- ⑨ 土曜の広場
対象どなたでも。園庭、保育室での遊び 園内案内
- ⑩ 預かり保育の充実
保護者の多様なニーズにこたえて朝は7：30からの受け入れを実施。
降園後は従来通り最終18：00
- ⑪ 「多様な他者との関わりの機会の創出事業」への実施希望
上記事業に参画する希望を町田市に提出済み。（2025年2月末）
町田市の選考に漏れ実施せず。
- ⑫ 2026年度新制度幼稚園（施設給付型幼稚園）への移行に伴う調査申請の提出
3月7日町田市に申し出提出済み
2026年度新制度移行へ向けての準備継続中

— 教員の養成 —

学院長による教職員へのカトリック要理の講義を継続する。これを通してカトリックについてとカトリック・ミッションスクールへの理解を深める。昨年同様にサレジオ家族教職員養成講座をオンラインにて職員全員で受ける。その後も自らの生活に、保育にそして自らの生活にどのように生かすか分かち合いの時間をとるように努め、カトリックの年間の暦を通して大きな祝日までの流れ（例えば待降節、四旬節、復活節、聖週間、復活祭、以後の祝日、など）を朝礼もしくは終礼時に園長から職員に伝える。

学年の担任同士で経験者がイニシアチブを取り、よく話し合う。園長、副園長は職員の考えやアイデアを引き出し必要に応じて助言および指導をする。さまざまな教育機関（全国カトリック幼稚園連盟、私学財団研修、東京都私立幼稚園協会研修、町田私立幼稚園連盟等）が開催する幼稚園教諭の研修会に積極的に参加し、現場に学んだことを活かす。研修の内容を全職員で共有する。

職員間の係分担を明確にし、それとともにわからないことは教えあい経験の浅い職員へのサポート体制をしっかりととる。

Ⅱ. 財務関係予算方針

- 施設関係 建物や遊具の改修については、突発的なことで園児に危険を及ぼす状況にある場合は速やかに何よりも優先して修理等を行う計画をしていたが大きな修理は無し。砂場の砂を１０年間追加していなかったため砂の補充を行った。
- 備品調達 開園して１０年が経過し、大型の遊具の購入はなかった。がホールのエアコンの故障のため急遽家庭用大型エアコンを２基設置した。
- 広報関係 本園の教育の信頼度、知名度を上げるための具体的な広報活動を行う。
職員の発想や意見を拾い上げ、周囲の幼稚園の情報の収集、地域の情報、在園する園児の父母たちからの情報(アンケート)を収集し、ニーズを把握し、地域に根ざした幼稚園を目指す。
預かり保育および満３歳児担任を専任が担当し、幼児の成長に即したきめ細やかな保育とさらに保護者への対応や連携を密にし、入園数増加に努める。
０、１、２歳の小規模保育園や無認可の保育園に案内やチラシを置いてもらい満３歳児入園への周知をする。
過去２年続けている大型マンションへのチラシ(園児募集、未就園活動の案内)の個別配布を２回行った。
人口増加が見込まれる八王子みなみ野地区への広報を検討する。(在卒園児宅へのポスター掲示依頼、新規開拓住宅へのチラシ配布。など) チラシやポスターについては職員が直接配布や依頼し今後行う。(業者への依頼は無し)

Ⅲ. 開園１０周年記念行事

- 目的 １、本園のこれまでの１０年を振り返り在園児、保護者、職員とともに祝う。(運動会を１０周年記念運動会としオープニングでお祝いの演技とメッセージを披露する。)
- ２、開園当初に尽力いただいた方、お世話になった地域の方々へのご支援に感謝する。

行事予定 １０周年記念運動会 ２０２５年９月２７日(土)
保護者の会からの記念品として遮熱大型テントを購入し寄付していただいた。そのお披露目もかねて記念運動会として行う。記念になる全園児参加の種目を入れた。(上記)

１０周年記念行事 ２０２６年１月３１日(土)
１０年が過ぎ開設当初にご尽力いただいた方々を招き感謝の気持ちを表すとともに、これからも子どもたちの健やかな育ちと更なる園の発展に向けて思いを伝える。
サレジオ工業高等専門学校９０周年、町田サレジオ幼稚園１０周年行事と

してサレジアンホールにて開催。

修道会、高専、地域の学校関係、地域で活動されている方、元職員、元、および現保護者会役員等参加。

幼稚園年長組が園歌及び聖歌の披露。緊張がみられたが広いところで多くの方々の前で元気に歌うことができ園児たちもよい経験ができた

(記念式典後は旧食堂にて茶話会)

園児には園章入りハンドタオルを記念として渡す。

来賓には高専、幼稚園2枚入りハンドタオルを渡す。

後日、参列いただいた来賓の方や保護者、また学校関係の方々からも園児へのお褒めのお言葉を多くいただき、それを年長児に伝えることで各自大きな自信となって巣立っていきました。

(3) 令和7年度末の計算書類及び事業報告書の附属明細書

【補助金報告等】

(1) 補助金等関係報告

サレジオ工業高等専門学校

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	日本私立学校振興・共済事業団	90,154,000	120,096,000	▲ 29,942,000	電気工学科不交付の為
2	授業料等減免費交付金	日本私立学校振興・共済事業団	39,759,400	12,105,200	27,654,200	理系加算、交付対象増の為
3	就学支援金事務費補助金	東京都生活文化局	1,304,000	1,229,000	75,000	
4	結核予防費都費補助金	東京都福祉保健局	48,913	60,720	▲ 11,807	
5	東京都授業料軽減助成金	東京都私学財団	79,201,500	92,831,532	▲ 13,630,032	
6	ゼロエミッション助成金	公益財団法人東京都環境公社	25,000,000	0	25,000,000	全館LED化補助金
サレジオ工業高等専門学校 小計			235,467,813	226,322,452	9,145,361	

サレジオ中学校

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	東京都生活文化局	62,511,800	60,715,600	1,796,200	
2	私立学校デジタル教育環境整備助成事業	東京都私学財団	488,000	1,003,000	▲ 515,000	
3	私立学校省エネ設備等導入事業費助成金	公益財団法人東京都私学財団	1,755,000	1,003,000	752,000	
サレジオ中学校 小計			64,754,800	62,721,600	2,033,200	

サレジオ小学校

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	東京都生活文化局	64,580,800	61,395,800	3,185,000	
2	私立学校デジタル教育環境整備助成事業	東京都私学財団	402,000	602,000	▲ 200,000	
3	私立学校省エネ設備等導入事業費助成金	公益財団法人東京都私学財団	1,755,000	602,000	1,153,000	
サレジオ小学校 小計			66,737,800	62,599,800	4,138,000	

目黒サレジオ幼稚園

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	東京都生活文化局	48,239,900	52,010,600	▲ 3,770,700	学級数減の為
2	私立幼稚園等教育体制支援事業費	東京都生活文化局	2,287,000	2,236,000	51,000	
3	私立幼稚園等環境整備費補助金	東京都生活文化局	270,000	24,000	246,000	暑さ緊急対策特別枠の為
4	預かり保育推進補助金	東京都生活文化局	2,310,000	2,310,000	0	
5	特別支援学校等経常費補助金	東京都生活文化局	784,000	784,000	0	
6	私立幼稚園教諭処遇改善費	目黒区	1,382,400	1,339,200	43,200	
7	原材料価格等高騰対策給付金	目黒区	0	767,250	▲ 767,250	
8	目黒区保存樹木補助金	目黒区	50,000	50,000	0	
9	私立幼稚園心身障害児教育事業費補助金	目黒区	366,000	366,000	0	
10	預かり保育補助金	目黒区	3,670,000	3,103,000	567,000	
11	給食事業費補助金事務手数料	目黒区	110,000	110,000	0	
12	事務手数料(川崎市より)	川崎市	5,400	5,400	0	川崎市在園児有
13	私立学校災害時対応環境整備費補助金	東京都私学財団	144,000	166,000	▲ 22,000	R5~7年度実施
		目黒サレジオ幼稚園 小計	59,618,700	63,271,450	▲ 3,652,750	

足立サレジオ幼稚園

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	東京都生活文化局	30,556,700	25,395,200	5,161,500	園児数微増
2	私立幼稚園等教育体制支援事業費	東京都生活文化局	945,000	932,000	13,000	
3	預かり保育推進補助金	東京都生活文化局	2,540,000	1,250,000	1,290,000	単価表3の為増加
4	特別支援学校等経常費補助金	東京都生活文化局	3,136,000	6,272,000	▲ 3,136,000	加配対象園児減少
5	私立幼稚園等環境整備費補助金	東京都生活文化局	273,000	307,000	▲ 34,000	
6	東京すくわくプログラム推進事業	東京都生活文化局	1,500,000	0	1,500,000	
7	多様な他者との関わりの機会の創出事業	足立区	5,170,000	0	5,170,000	
8	安全管理経費補助金	足立区	38,280	33,000	5,280	
9	安心安全確保事業補助金	足立区	167,560	0	167,560	
10	特別支援教育事業	足立区	1,100,000	1,100,000	0	
11	就園奨励事務費補助金	足立区	0	38,000	▲ 38,000	
12	私立幼稚園補助金	足立区	333,000	308,000	25,000	
13	満3歳児就園補助金	足立区	4,312,000	4,312,000	0	
14	幼稚園教育奨励費事業補助	足立区	4,240,350	4,026,000	214,350	
15	2歳児補助金	足立区	4,158,000	4,026,000	132,000	
16	夏期休業中預かり保育推進補助金	足立区	0	168,000	▲ 168,000	
17	物価高騰支援事業補助金	足立区	522,114	75,000	447,114	
18	私立幼稚園防犯対策経費補助金	足立区	0	300,000	▲ 300,000	
19	私立幼稚園等園児保護者補助金事務費	足立区	44,500	0	44,500	
20	私立学校災害時対応環境整備費補助金	東京都私学財団	87,000	33,000	54,000	R5～7年度実施
		足立サレジオ幼稚園 小計	59,123,504	48,575,200	10,548,304	

町田サレジオ幼稚園

	補助金名称	交付団体	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	経常費補助金	東京都生活文化局	46,050,300	41,033,800	5,016,500	専任教員数増加による
2	私立幼稚園等教育体制支援事業費	東京都生活文化局	1,464,000	1,485,000	▲ 21,000	
3	預かり保育推進補助金	東京都生活文化局	2,960,000	2,960,000	0	
4	私立幼稚園等環境整備費補助金	東京都生活文化局	200,000	0	200,000	暑さ緊急対策特別枠の為
5	特別支援学校等経常費補助金	東京都生活文化局	1,568,000	1,568,000	0	
6	東京すくわくプログラム推進事業	東京都生活文化局	1,500,000	0	1,500,000	
7	認定こども園等の業務体制への支援事業	東京都生活文化局	1,000,000	0	1,000,000	
8	事務処理補助金	町田市	110,000	140,000	▲ 30,000	
9	物価高騰対策支援金	町田市	491,040	560,997	▲ 69,957	
10	日本スポーツ振興センター掛金補助	町田市	32,205	34,485	▲ 2,280	
11	障がい児通園促進事業補助金	町田市	1,160,000	2,682,500	▲ 1,522,500	
12	町田市私立幼稚園等幼児教育充実事業補助金	町田市	1,070,000	1,190,000	▲ 120,000	
13	私立学校災害時対応環境整備費補助金	東京都私学財団	83,000	90,000	▲ 7,000	R5~7年度実施
		町田サレジオ幼稚園 小計	57,688,545	51,744,782	5,943,763	

受託事業(サレジオ工業高等専門学校)

	受託元	事業名	R7年度	R6年度	前年比	備考
1	株式会社 節句田	花活布活用研究費	0	70,000	▲ 70,000	
2	日本学術振興会	ひらめき・ときめきサイエンス	0	429,865	▲ 429,865	
3	国立大学法人長岡技術科学大学	受託研究	0	400,000	▲ 400,000	
4	糺の森	受託研究	0	2,090,000	▲ 2,090,000	
5	東京都町田市	芹ヶ谷公園 冬イベント委託	0	211,577	▲ 211,577	
			0	3,201,442	▲ 3,201,442	

(2)施設・設備関係報告

	事業所名	内容	金額
1	サレジオ工業高等専門学校	全館LED化工事	52,250,000
2	サレジオ小学校・中学校	受変電設備更新工事	24,750,000
3	サレジオ工業高等専門学校	部室棟エアコン増設工事	6,050,000
4	サレジオ工業高等専門学校	自動火災報知設備 更新工事	4,950,000
5	サレジオ工業高等専門学校	非常放送設備 更新工事	3,960,000

(3) 令和7年度課題研究費採択者一覧

1	The Role of Technical Education in the Process of State-building: The Case of Post-conflict State of Timor-Leste	¥	100,000
2	近赤外線カメラ化した汎用一眼カメラ計測システムにおける光学的精度評価	¥	100,000
3	ユニット交換可能なブイと小型カメラによる瀬戸内海沿岸域における潮目の観測	¥	100,000
4	サイズがアレフ-IのDowker空間における積の正規性	¥	100,000
5	Left Regular Bandで表現されるマルコフ連鎖と組み合わせ論的な背景の考察	¥	100,000
6	一条朝以後における九条流藤原氏の文芸についての分析	¥	100,000
7	風車の慣性応答による制約条件付きモデル予測制御に基づく離島マイクログリッドの周波数制御	¥	100,000
8	可視化測定に向けた超音速発生装置の改良および光学系配置の検討	¥	100,000
9	リモートセンシング技術に関する研究	¥	50,000
10	発光分光分析を用いたガス密度診断法の検討と深振動マグネトロンスパッタリングのガス希薄化現象の解明	¥	100,000
		合計	¥ 950,000

【事業報告書附属明細書】

附属明細書は作成していない。

2025 年度学校自己点検評価

サレジオ中学校

本校の教育方針	生徒の全人的成長を最大限に促進させるよう努める。特にキリスト教的価値観に基づく人間教育に力をいれる。学業を中心に豊かな自然環境と少人数制の中で学校生活で繰り広げられる多彩な年間行事を通して、教職員との密な協働活動を通し共に成長する。聖書とカトリックの価値観による神の存在と深い人間理解に基づき個人の成功のみでなく自己に責任を感じ良き社会人として貢献できる人になるよう育てる。
教育の特色	ドン・ボスコの予防教育法である①本人の納得を得、本人の判断で決定していけるよう「理性」に訴えること②教職員の側からの分りやすい、やさしい対応による伝わる「愛情」③カトリックの価値観を意識し、神のみ前で生きることを促す「宗教」の三つの柱を特色とする。教職員が共にいて支えるアシステンツァを通して、教室での学習のみならず、学校生活の全てを通して予防教育法を実践する。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況		評価	取り残した課題
宗教教育	校内の宗教的 雰囲気醸成	宗教行事において司牧部の生徒や役割を与えられた生徒を中心に、生徒達の主体的な参加を促すことができた。倫理授業開始の際、生活の振り返りと祈りを行うことで、日常生活を宗教的な視点から見つめ直すことができた。		B	司牧部会から教員・生徒へのはたらきかけをより強めていき、学校全体としての宗教的雰囲気を高めていきたい。特にサレジオ会来日100周年に向けての意識を高めていきたい。
教科指導	学力向上のための充実した授業の実施と教育効果を高める教育課程の作成 生徒の自主的学習態度の育成	国語	読む力、書く力、話す力・聞く力をバランス良く身につけさせることを目標とした。授業はワークシートを用いて行い、書くことが苦手な生徒もできる限りついてこれるような授業作りを行った。また、それぞれの単元終了後に作文や小論文、レポートなどの課題を出し、物事を主体的に考え出す力を培わせた。対話的な授業実施を心掛け、教員対生徒はもちろん、生徒同士の対話も重視した。漢字テストや確認テストなどを定期的に行うことでこまめな学習成果の確認を行った。	B	授業に関係ない私語などが目立った。集中力を持続させることが苦手な生徒が多いため、要所要所で授業に注目させられるような工夫を行いたい。また、小テスト・定期テストなどの結果が思わしくない生徒が多いため、予習復習を徹底させたい。
		社会	社会に対する関心を高め、様々な角度から考察し、我が国の国土と歴史に対する理解を深め、公民としての基礎的教養を培うことを目標とした。教科書を基に作成したプリントで授業を行い、単元ごとにDVD教材や問題集、小テストを活用し理解を深めた。また、インターネットを利用して調べ学習やビデオ等の視聴覚教材を利用し社会科に関する興味・関心を深めた。単元毎の確認を小テストや課題の提出などで補った。今後は自発的に考え、発表する機会を多く取り入れる必要があると思われる。	B	学習に対する理解度に個人差がある。生徒の学習における習慣化のためにも家庭学習時間を充実させたい。そのために継続的な課題と提出を目標としたい。また、探求する場を多く取り入れたい。
		数学	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することを目標としている。数量や図形などに関する基礎的な原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得するために、単元ごとにプリントを用いて復習し、定着を図った。事象を数理的に考察し表現する能力を高めるために、長期休みの期間を活用して、レポートの提出を行った。また、毎授業ごとに宿題を出し、授業時間内にも取り組む時間を設け、生徒同士で考え教え合うことで、家庭学習の助けになるようにした。生徒の基礎的な学力の定着のため、基礎的な計算を行う機会を増やすようにした。	B	基礎的な計算力や数学的な知識が身についていない生徒の割合も多く、より基礎的な段階での学習が必要だと思われる。個別指導の機会を設けたい。宿題提出の習慣は身につけてきている生徒の割合は多いが、自分の間違いを認識し、修正する段階までいっている生徒の割合は少ない。また、宿題提出の習慣が全く身につけていない生徒が一定数見受けられる。生徒それぞれの課題について認識させたい。

		理科	身の回りにある事物・現象について科学的に考察し、観察や実験を通して科学的な見方や考え方を養うように努めた。今年度は、モニターを使った授業を行い、映像やアプリケーションを用いることでより生徒の興味・関心を持たせることができた。生徒が発言する機会を作り、相手の意見に対して科学的に考察させることができた。またプリントを用いる授業を行うことで、生徒一人一人の授業の進行状況を揃え、理解を深めた。苦手意識の強い物理や化学の分野では、小テストを取り入れ、練習する機会を増やした。	B	学習に対する理解度に個人差がある。観察及び実験や映像を使った授業を多く取り入れたため、問題集や確認テストなど知識の定着を知る機会が少なくなってしまった。そのため授業では、より知識の定着を図る機会を増やしていきたい。また授業の中で生徒との対話をより取り入れて、主体的に授業に参加させるようにしていきたい。
		英語	聞くこと、読むこと、書くこと的能力を養うように学習を進めたが、話すことについての学習については不十分であるとする。今後も時間を掛けて指導していきたい。各学年とも異文化について楽しみの時間を持つことができた。文の構文に意識するように定期的な課題を出し、文の構造について理解できる生徒が増えて来た。	B	提出物などの取り組みは昨年以上に良くなったと思われるが、1クラスの中でも非常に学力差があり、授業のレベル設定が非常に難しい。学習について困難な生徒でも指導をしにくい状況があった。学習不足だけがその要因ではないことに難しさが非常に残る。全体的には単語力をつける指導に課題が残った。
		音楽	音楽を表現するために必要な基礎的な知識、技能を身につけ、器楽合奏、独奏、合唱などを実施し、音楽的な感受性、楽しさを身につけることを目的とした。また、音楽鑑賞をとおして、さまざまな分野の音楽に対する興味・関心を高められるように努めた。	B	歌唱授業をとおして、歌詞への理解や変声期を迎えている生徒が多い中、適切な歌唱技術の習得の難しさを認識した。また、器楽合奏、独奏においては、個人差はあるが、どうしても技術的な面を優先しがちになるので、技術面だけではなく、音楽性の向上につなげていきたい。
		美術	表現の技能を身につけ、感性や想像力を働かせて、創意工夫し創造活動がおこなえるように、主題を厳選した。能力に応じ完成度を求め、喜びや達成感のある活動となるよう意識した。鑑賞を通して日本や世界の文化、自然や美術文化への興味、関心を深めた。	B	授業時の生徒の取り組みは良いと評価できた。技法の理解を深めるために、個別に関わる機会を増やし対応した。自発的な取り組みもみられるようになったので、より様々な課題を精査していきたい。
		技術 家庭	ものづくりの基本を体験を通して学ぶとともに、衣食住についての知識を身につける。家族や地域社会に関心をもち、生活を充実向上させるため適切に活用できるようにする。生活や社会を支える情報技術についても実践を通して深めた。	B	分野が広範囲な為、広く浅い授業になりがちであった。理論と実習時間のバランスでは実習時間をより多くしたいが知識理論を前提とした導入にどうしても時間がかかってしまうことは指導の課題だと思われる。実習に於いては積極的に参加する生徒が増えつつある。
		保健 体育	運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識や技能を身につけ、体力を高め、心身の調和的な発達をはかりながら、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。個人差が大きすぎて、技能的な部分で到達度が低い者にたいしては個別指導で底上げを試みたがなかなか効果は上がらなかった。23年度からカリキュラムに入ったダンスは体育祭の時の特別時間割の中で実施した。	B	毎年残る個人差については、技能的な部分で到達度が低い者に対しては個別指導で底上げを試み、能力の高い生徒と低い生徒と分け、生徒数が少ないことを逆利用して能力別指導を試みた。毎年、身体能力が低い生徒が増えているように思える。
進路指導	自己実現への意欲と実力の涵養		進路先が広範囲に及び、能力差も大きいので、指導は個別指導が中心になってくる。推薦試験を希望する生徒の割合が多いため、面接、小論文の練習を充実させた。保護者面談や生徒との面談、また三者面談を行い、生徒、保護者、教員が話し合う場を設けるように設定した。	A	進路に対して本格的に考え始める時期をもう少し早めることが課題である。生徒、保護者と相談する時間を多く設け、一人ひとりの進路に対する考え方、気持ちなどを確認することができた。より早くから生徒に声かけし、考えさせることを行っていきたい。

生徒指導	基本的生活習慣の定着	毎週各学年一人ずつが週番となり、週目標と注意事項を決め、クラスごとに達成状況を反省し、次に繋げている。また、中学一年生の校内宿泊学習では集団の規律を守りながら皆で協力し責任のある行動をとる力の育成を図った。中学二年生の校外学習では、班別行動を行い、個々の目標を定めながら、集団活動に反映させた。中学三年生は中学校生活で行う特別活動の総まとめとして、長崎の修学旅行を通して平和学習や宗教学習を行った。		B	週番活動では、生徒の実態を把握するに至った。校内宿泊学習や校外学習では、集団行動を通して協力しあい、相互の関係を深める経験をした。修学旅行では、集団学習のまとめをしつつ、平和学習や宗教的な歴史や学びにもふれ、たくさんのことを経験した。
特別活動	自主的に学校生活に打ち込む生徒のサポート	部活動	バレー部、サッカー部においては、明確な目標のもと、日々練習を重ね、練習試合や公式戦に臨んだ。球技部は校内での活動に重きを置いて活動した。美術部は個人の作品をつくることに重点を置いて活動した。、オルガン部は宗教行事の中で聖歌の伴奏をするなどの活動をした。軽音楽部は文化祭等の行事で、バンド演奏をするなどの活動をした。各顧問は生徒一人一人の性格や能力を把握しながら適切な指導を行っている。	A	バレー部・・・全国大会優勝を目指し、練習に励んだ。全国大会に出場し、決勝トーナメント進出した。 サッカー部・・・集団スポーツとしてのサッカーへの理解を高める。大会への参加を目指す。 球技部・・・いろいろな球技を取り入れながら、スポーツの楽しさを実感できるように心がける。 オルガン部・・・パイプオルガンでの練習、レッスンをとおして、技術、音楽性を高め、オルガン音楽の普及を目指す。 美術部・・・楽しみながら美術としての深さを体験する。 軽音部・・・興味のある楽器を持ち、基本からバンド練習を通して発表に繋げ音楽の楽しさ、チームワークを学ぶ。
		検定	多くの生徒が各学期一回実施される英検・漢検・数学検定に積極的に取り組んだ。漢検や数学検定では、放課後や昼休みに補習の時間を設けた。	B	積極的な取り組みを見せる生徒が多くなってきたが、一部の生徒はなかなか関心を持っていないままである。モチベーションを上げられるように工夫する。
		行事	体育祭では個人競技、団体競技、応援合戦などに全生徒が積極的に取り組み、教員は指導・サポートの充実をはかった。文化祭ではクラスで協力して、アトラクション企画や劇、教室展示の作成・発表を成功させた。行事においては、どの生徒も自分の持てる力で最大限その場に参加し、成果を出すために協力する大切さを学ぶことを目指している。	A	特別時間割となるため、授業時間とのバランスを取りたい。小中合同での開催するため、開催時期の見直しを実施した。今後はこの日程で実施する予定。
国際交流	英語に興味・関心を持つ生徒の育成・支援と海外との交流の推進・英語検定受験の推進	英語検定については、積極的に取り組む生徒が増えてきた。学校実施の英検については、生徒たちは意識を持って積極的に受験している。		B	教員からの積極的な働きかけをさらに増やし、興味・関心を促す。
研究・研修	校内外研修の計画と実施	毎年開かれる全国カトリック学校校長教頭合同研修会に積極的に参加しカトリック校としての使命を確認する。小規模校で、ひとクラスひとりの担当制で営まれている学校では、研修に出かける余裕がなく、閉鎖的になりやすいので極力休業中に研修に与えることを勧める。また、学校に講師を招き、難しい児童・生徒の対応の仕方等について研修を行った。		B	職員会議、担任による会議、カウンセラーやソーシャルワーカーとの意見交換等で、学習・発達支援の必要な生徒の対応・問題点について話す機会が増えている。今後は研修の機会を多く持ち、更に専門的な知識を身につけたい。

家庭・地域との連携	開かれた学校	生徒保護者の活動として、体育祭では受付、文化祭では模擬店を行った。クリスマス会にはお祝いを用意してもらい、ドン・ボスコの記念日にはドン・ボスコランチを提供してもらった。 同窓会の活動としては、文化祭での受付をしてもらった。また、卒業生が20歳になった年の1月には成人祝福式をおこなった。 3月には近所の福祉施設で、ハンドベル演奏を行った。	A	生徒保護者「ひな菊の会」、卒業生保護者「オーブの会」、同窓会などと一緒に行事を行う機会を増やすことができた。地域の方との交流の機会も持つことができたので、より多くの方に学校を知ってもらう機会を作っていく。
安全管理	防災非難訓練の実施	年間3回の小中合同の避難訓練を実施した。それぞれ、火災・地震・不審者侵入を想定したもので、基本的な避難経路と避難先を確認。緊急放送設備の点検も行っている。3・11地震と津波による自然災害の脅威について学び、災害時の対策マニュアルを見直した。災害時のマニュアルを新たに更新した。	A	不審者に対しては、実際に起こったときに生徒・教職員がどのように対処できるか不安が残る(心理面含め)。また、教職員が誰でも対処ができるよう、対応の周知を徹底したい
	防犯訓練の実施 安全点検	年度初めの四月に、小平警察に依頼し、生徒向け、保護者向けのネット携帯講座を行った。また、自転車通学を許可しているので、関連の動画を視聴し、自転車の乗り方についての講習を実施した。	B	生徒たちの歩行時・自転車のマナーに対する意識を一層徹底していきたい。
健康管理 (保健室運営)	自分の健康に関心を持ち健康な生活が送れるよう、自ら考え行動できる児童生徒の育成	定期身体測定・健康診断の実施と結果報告並びに治療勧告を行なっている。治療勧告に対しての受診率が低いので再三の受診勧告を行った。感染症の対策としては、手洗いを促し、アルコール手指消毒を呼びかけている。保健室の利用状況については、怪我やメンタル面で保健室を来訪する者が多い。環境点検(水質検査・トイレ・洗い場・中庭)を週に一度実施している。	B	感染症対策としては、適切な睡眠、食事、食事で免疫力を高めることや手洗いをすることが重要であると考え。心と体の健康、特に思春期の精神面での援助が重要になってくる。今後も精神面のサポートとしてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携してサポートしていく。事故発生前に予防できるよう、環境や生徒達の意識を整えていく。
施設管理	施設設備の点検と保守・改修の年間計画実施した改修工事等	キュービクル更新校時実施。大樹の剪定、教室等の床修理など多くの修繕・修理を実施した。	B	大樹の剪定実施。教室内のロッカーや床の修理など、早めに対応したい。
省エネルギーの取組	教職員の意識及び実践	基本的には教職員全体に省エネについての呼びかけが行われ、了承されているが各人の意識はかなりばらつきが大きい。より数値を示しながら周知徹底を図ることが必要である。職員会議でのプリントの削減に取り組んだ。	B	さらなるデジタル化を図り、紙媒体での連絡などを削減していく。省エネに対しての意識付けができていますので、さらに対応策などを検討したい。

サレジオ小学校

本校の教育方針	児童の総合的成長を最大限に促進させるよう努める。特にキリスト教精神に基づく人間教育に力を入れる。豊かな自然環境と少人数制の中で学習を中心にするとともに、多彩な年間行事での教職員との密な関係性を通して共に成長することを培う。聖書に基づくカトリックの精神によって、神の存在と深い人間理解に基づき、個人の成功のみでなく、自己に責任を感じ、良き社会人として貢献できる人になるように育てる。
教育の特色	サレジオの創立者ドン・ボスコの予防教育法である、①本人の納得を得、本人の判断で決定していけるよう「理性」に訴えること、②教職員側からのわかりやすい優しい対応による伝わる「愛情」、③神のみが本当のことを見ておられることを意識し、そのまなざしの中で生きることを促す「宗教」、の三つの柱を特色とする。教職員が共にいて支えるアシステンツァを通して、教室での学習のみならず、学校生活の全てを通して予防教育法を実践する。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
宗教教育	校内の宗教的雰囲気 の醸成	司牧部会を定期的に行い、マリア祭(5月)・プール開き(6月)・慰霊祭(11月)・クリスマスの集い(12月)・ドンボスコミサ(1月)などを開催した。信徒児童生徒の集まり、練成会も実施した。赤い羽根共同募金をお手伝いした。	B	相手に心を開き、相手の気持ちを推しはかる心を育む。そのための行事なども考える。
		食堂に宗教的掲示を常設するとともにポスターなども定期的に張られ、聖書のみ言葉やドン・ボスコのことばなどが伝えられた。待降節には、昇降口階段上にアドベントカレンダーが貼られ、クリスマスツリーは昇降口の下に2台設置した。小学生、保護者のバイブルクラスが定期的に行われた。	B	より一層、効果的にキリスト教的な価値観が伝わるような雰囲気を大切にしていきたい。
教科指導	①基礎学力向上のための充実した授業の実施 ②教育効果を高める教育課程の作成 ③児童の自主的学習態度の育成	①学級担任だけでなく、教科担当の教員とも連携し、児童の実態に合わせた授業内容を構成するように努めている。個の学習活動の時間を確保できるように実施している。 ②年間指導計画を基に、児童の学習における習得状況に合わせて授業の内容を調整し、児童の確かな学力に繋がるように意識している。 ③発言などで授業に参加しやすい環境の中で、児童自身が学びについて自分事と捉えられるように学習活動を構成している。少人数学級の特長を活かし、自らの疑問や問い、既習内容の応用などを持ち寄って学習に参加する児童の姿勢から、自主的に学習に向かう様子が見受けられるようになってきた。	B	一斉指導をしていく中で、今年度も児童個人の学力の差が出ている子への対応は、個別指導等で学校のできることを考え、家庭での協力ももらいながら進めてきた。学級で一斉授業をしていく上でも、今後も検討・研究していく必要がある。 宿題に取り組む姿勢や授業への関心、自主的な学習態度については、低学年の頃からの声かけや価値づけて醸成されるものだと考える。学校全体で意識化していくことを目指したい。
進路指導	自己実現への意欲と 実力の寛容	児童及び保護者に自分の進路選択への心構え・他児の進路の尊重や気遣いなどを繰り返し話をしてきた。進学先が決まった後は、縁のあった学校に期待をもって、前向きに進学することができるよう一人一人に声をかけた。積極的な受験指導については本学が目指す学校像とは合わないとの考え方について十分なご理解を得て、各ご家庭が主導されるよう保護者会を通して話をしている。	B	本年度も、感染症への危機 埼玉県の私立中受験から、受験前の欠席が多くなった1月最終週は出席率50%。欠席児童との学習状況・学級活動などの情報共有、出席児童の少人数学級での過ごし方に配慮が必要である。受験準備のための長期欠席をどのように減らしていくかが課題である。
生活指導	基本的生活習慣の 定着	自由な雰囲気を大切にしながらも、挨拶・時間を守ること・言葉遣い、使った物の片付けなど、集団生活が潤滑に進むために一人一人が気をつけるべきことを指導してきた。児童一人一人の個人差なども教員間で共有し、言葉かけ・アプローチに取り入れるようにしている。 また、熱中症・感染症の予防について注意を促してきた。	B	気持ちのよい挨拶をできる児童と、なかなかできない児童の差がある。教員から声をかけることで、挨拶することの気持ちよさを伝えていきたい。教室の遊び道具や、図書室の本が出しっぱなしになっていることがあり、今後もその都度声かけをし、片付けることが当たり前となるように指導していきたい。

国際交流	外国語に興味・関心を持つ児童の育成	国債交流の場を考えてはいるが、年間計画の中で実施するのは難しいと判断している。今年度も、外国語活動(英語)3・4年で週1時間 外国語科(英語)5・6年で週2時間で授業を行った。英語に興味関心を持っている児童も多く、楽しんで授業に参加している様子も伺えた。	B	今後も「英語ができる」ではなく、「英語に興味・関心を持つ」を基本にし、外国語(英語)への興味・関心が損なわれないように留意していきたい。
研究・研修	学校内外研修の計画	今年度も 春と夏に校内研修会を開き 校内の問題について協議する機会をもった。また、SC・SSWの相談室での相談を持ち寄り全員で共有し指導に生かすことができた。また、子どもの発達や合理的配慮などについてどのように対応していけるのか検討する時間を定期的にもった。	B	今後も講師を招いての研修会を取り組みたい。発達に課題を持っている児童と、それを取り巻くクラスの状況について、SC・SSWとも連携することができたが、引き続き職員間での共有をしつつ取り組んでいく必要がある。
家庭・地域との連携	開かれた学校	学校 HP・校長講話・面談・学校通信・学級通信・保護者会等を通して 保護者の理解と協力を得られるよう発信・対応をしている。保護者会では、全体会・学年会ともに、4月・7月・9月・12月・3月に実施した。体育祭と文化祭は、小学校・中学校による合同実施。役員中心に、受付の手伝いや模擬店をしてもらうことで、学校の特色が出ていると思っている。音楽会は、保護者鑑賞のもと全学年同日で開催。また、近隣の養護老人ホームに音楽クラブが訪問。地域交流の一環として活動した。学校HPに設けられた「小学校保護者へのお知らせ」というコーナーを有効に活用できた。一斉メールも有効に活用した。学校説明会は 第一回5月・第二回6月・第三回7月・第四回9月と4回実施した。	A	広報・告知・発信等に活用できるメッセージボードを正門に設置し、有効に活用できるよう配慮した。OB・OG の会のオリーブの会では、同窓会会報も年に1回発行されるだけでなく、文化祭模擬店にも携わるようにした。今後も、できることは何かを考え取り組んでいきたい。
安全管理	①防災避難訓練の実施 ②防犯訓練の実施 ③安全点検	昨年度同様、春休みに教職員の AED 訓練と消火訓練、通報訓練の 3 つを実施した。5月避難訓練(不審者想定)と引取訓練(同日)、9月の避難訓練(地震想定)と配給訓練、1月の避難訓練(火災想定)を行った。また、学内の剪定に取り組み、危険箇所をなくす取り組みをするとともに、学内の危険箇所について教職員と確認し合い、児童への注意喚起を促した。	A	今後も消防署や警察と連携をとりながら、通常の避難訓練や講習会を実施したいと考えている。今後も、天候状況やその場所場所などで、安全に学校生活を送る意識を児童にも考えさせていくことを実践させていきたい。
健康管理	①校内での事故防止のための環境整備 ②相談活動の充実 ③手洗いの励行	①階段近くで走る・見通しがきかない曲がり角を走る抜けるなど危険な様子が見受けられるので注意するとともに見守っていく。 ②心と体の相談を受けSC/SSWと密に連絡を取り、担任との話し合いの場を設けるなど報告・連絡・相談に取り組んだ。 ③全学年、SC による全員面談を実施した。	B	SC,SSW と担任の先生の情報共有の時間をもう少し確保できたらと考える。発達障害の子どもたちへの具体的な対応・適切な対応のアドバイスをいただける機会もさらに設けられたらと思う。
施設管理	①施設設備の点検 ②保守・改修の年間計画 ③実施した改修工事	消防設備の整備点検は、年度に 2 回行われている。不定期ではあるが、小学校エリアの除草剪定・樹木剪定や正門広場の剪定等が行われた。また、各小学校施設の修理や修繕も、不定期だが行っている。	A	今後も、各施設の点検等を行い、できるだけ早く修理修繕を行いながら、児童が安全に学校生活が送れるように配慮していきたい。
省エネルギーの取り組み	教職員の意識及び実践	空き教室になる時の 戸締り・消灯・エアコン・床暖房など 継続して言及してきた。	B	特別教室への移動の際、戸締まり・消灯を各個人が意識的に小まめに実行できるように、習慣化できてきた。

目黒サレジオ幼稚園

園の教育方針	創立者(聖ヨハネ Bosco)の教育理念である、「理性」・「宗教」・「慈愛」を根本に予防教育の実践。家庭と密接に協力しながら明るく、暖かい雰囲気作りを目指す。又、園児自身が愛されている 体験を通じ、自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身につけ円満な人格形成を 目指し、明るい社会人になるよう育成する。
保育の特色	・予防教育の実践 ・カトリックの教育を通して善悪の判断、思いやりの心・けじめのある態度などを幼児期に しっかり伝える。 ・一人ひとりの園児の理解とその子にあった指導を心掛ける。

評価項目	取組目標	2025 年度目標方針の内容	評価	反省
保育課程の構成と実施	幼児教育要領の理解と教育課程の改善	・研修・東私幼・目黒私立幼稚園協会主催の研修への参加促進 ・教育関係の冊子による情報収集 ・教育要領の理解	B	オンライン研修も多く開催され、各自関心がある内容を受講できた。
	本園の伝統や特色ある保育の反映	・カトリックの教えに基づく宗教教育の実施 ・宗教行事(聖母祭・クリスマス会・祈りの集い) ・創立者の祝日	A	職員のカトリック理解を深めるため、引き続き副園長神父による要理を実施。カトリック園ならではの宗教行事や祈りの場の中でその雰囲気を出せた。
	幼児発達の度合いに応じた指導計画と実践	・年度初めの年間計画の作成、及び学期毎の見直し園児の状況と内容の調整・変更	A	毎年の計画だとしても年度初めの検討は必要。状況に合わせた変更などその都度考慮できた。
	一年の園行事の実践	・年間予定を決め、行う ・四季を感じられる内容を取り入れる ・各行事については、園長・主任・担当者が内容を検討し、実施 ・保護者の会(PTA)については園長・主任が参加し運営の方向付け及びサポートを行う。	A A	行事の意味合いを考えながら、職員間での共有、準備を徹底し、実施していくことができた。 保護者の会に関しては、負担軽減を目指す新体制での運営となり、状況に応じた対応をしながら園と保護者が共に歩むことができた。
保育の研究・研修	園内外の研修に積極的に参加し保育の資質向上をはかる	・目黒私立幼稚園協会の研修に参加 ・研修へ各自参加し報告と分かち合い ・年度始めのカトリック東京教区新任・園長・主任研修に参加 ・職員研修 「遊びのスキルアップ」総合体育研究所講師 「小学校生活について」増田健(目黒星美小教諭)	A	目私幼の研究も園内のみで行い研修会日はオンラインであった。
			A	年度初めの研修は他園との交流の場としても良い機会となっている。
			B	年間で一つの研修(オンラインも可)に全員が参加。講師を招いた園内職員研修を2回実施。

保育者・地域社会との連携	近隣小学校との交流 協力・連携 近隣中学校との連携	5月に星美小の教諭による保護者向けの学校紹介を実施 年長組は7月にサレジオ国際学園目黒星美小学校を訪問 中学生の「職業体験」を実施	A	星美小の教諭による学校紹介は3学年問わず希望者の方が多く参加。
			A	星美小の訪問見学は子どもたちの良い体験として継続。
			A	職業体験として3日間中学生を受け入れ、保育者の仕事を体験する機会を提供
	地域の要請に応えた子育て支援（預かり保育等）	・園児の預かり保育の実施 18時までの預かり 課外教室「スポーツ・サッカークラブ」 課外教室「ジャクパ」 ・夏期特別預かり保育 夏期休みのうち15日間実施 9:00～14:00の預かり ・未就園児対象のたんぽぽ組の実施 親子参加型 前期のみ ・未就園親子の交流「サレジオひろば」 親子参加型 年間全7回	B	預かり保育と課外教室の組み合わせにより、子どもを預かる体制が充実。需要はさらに増えている。
			A	スポーツ課外教室は体育指導の先生中心で開催されており、保護者からの信頼が厚く体を動かす良い場となっている。
			A	未就園たんぽぽ組から満3歳児ちゅうりっぷ組の入園につなげた。また「サレジオひろば」は予想を超える盛況。前期のみの予定を変更して年間7回の実施。
	保護者との連帯行事 情報発信等	・一斉メール使用(災害などの緊急時) ・手紙の配布 ・保護者の会主催の行事を改善し、園行事の「ファミリーデー」の中で企画実施 事前準備及び開催 ・保護者有志による園の清掃ボランティア	A	アプリを活用したメール、ペーパーレスが進んだ。年間スケジュールの周知もアプリを使用。
			A	前年まで行っていた保護者の会主催企画は負担が大きいため園行事の中での一企画にし、負担なく実施できた。
			A	清掃ボランティアも多数参加。保護者同士の交流のためにも良い機会となった。
安全管理	防災・避難訓練の実施 防犯訓練の実施 安全点検	・園児の行う避難訓練(毎月)実施 (保護者への引き渡し訓練を含む) ・防犯訓練は学期毎に実施 園内での訓練と警察の指導の元で実施 ・園児の不審者訓練を実施	A	今年度も引き続き子どもにも防犯訓練を実施。不審者が侵入した際の約束事や避難方法を練習。学年に合わせた内容で行う事で恐怖心を持たずに非常時に対応出来るよう意識付け出来良かった。
保健管理	幼児の健康に係る年間指導計画	・手洗い、換気の徹底 ・園児の生活リズムや健康管理を徹底するよう保護者にも依頼。 教職員も園児の体調の変化に気づくよう視野を広げる。 ・各保育室に吐しゃ物対応グッズ設置・点検 ・看護師との情報共有	A	コロナ同様、丁寧な手洗いの指導実施。換気の徹底、健康管理の徹底、教職員の体調不良にもきちんと休めるよう、職員配置も考慮した。
			A	看護師の方のサポートの力が大きく、職員に安心感がある。
	健康診断の定期的な実施と把握	・内科・眼科・歯科検診 ・身長・体重の計測 (2ヵ月毎、測定)	B	特になし

施設管理	施設・設備の点検と保守・改修の年間計画	・毎朝、グラウンド・園庭整備 危険箇所の視診 ・毎月、園庭の遊具点検 ・建物の角、赤コーンの設置飛び出し防止、出会いがしらの衝突の予防 ・トイレのドアの表面 様々な塗装 雨漏り補修など…多岐にわたる	C	施設の老朽化が年々進んでおり、設備、環境の安全面にいつも以上の配慮が必要であり、現状を維持して保育を行う事に神経を使っている。漏電遮断器が下りるケース、突然の停電、電話も不通になる事が年度内に数回あり対応に困惑した。
	必要な補修・改修工事	・固定遊具(鉄棒・ブランコ雲梯のゴムマットなど)の 補修 ・保育室の修理・雨漏り修理 ・園庭樹木の剪定	B	遊具の点検、必要な修理は継続して実施。古い樹木も手入れの必要があり。園児の安全のために常に意識を持ち、対応している。
省エネルギーの取り組み	教職員の意識及び実施	エコ活動 節電・節水・節約を心がける リサイクル (紙・電池・資源など) 印刷備品の節約 ゴミをなるべく減らす意識	A	電気・水道・ガス使用料金の高騰で配慮が必要な為、教職員間で、電気やガスの使用方法を共有した。
			B	資源を大切に使う意識を子どもに言うだけではなく、大人の教職員も守る必要性を感じた。若干の職員間の意識の温度差に課題。共通の認識を持っていきたい。

<2025 年度の振り返り>

今年度は満3歳児保育「ちゅーりっぷ組」の立ち上げが園の中で一番大きな改革であった。保育室やトイレなどの環境を整えるところから、保育の内容を検討し、試行錯誤しながらも9月に無事にスタートを切り、年度末には16名が在籍となった。満3歳児が園に加わったことで、年少から年長まで皆が年下の仲間にできる小さな親切や温かい気持ちを持って共に過ごしていくようになり、園全体が幸福感で包まれていった。

また、広報担当の職員を中心に、Instagramの開設、未就園の親子を対象にした「されじおひろば」の活動を開始したことにより、園に足を運びきかけを増やすことが出来、園の存在や雰囲気を知ってもらうようになった。

子育て支援の拡充として「長期休暇預かり保育」を夏、冬、春、に行う事を決定し、12月に情報解禁したところ、問い合わせや追加面接の希望が増大した、新たな取り組みの導入によってもたらされる効果を実感した。今後も、保護者アンケートを実施し、家庭のニーズを把握しつつより良い園を目指していきたい。一方、こども家庭支援センターの案件も複数あり、こども達の育ちのために連携を図りながら 保護者や家庭に寄り添う重要性を感じるケースが年々増えている現実がある。

施設面に関しては、老朽化に伴う不備や支障が度々あり、建て替えを切望する職員の声も切実である。秋に短時間集中豪雨がいった際、近隣の道路が冠水し、園内も水が引くまでに時間を要した。暑さ対策に加え、気候変動に考慮した園の環境整備の必要性を感じている。

職場として、自宅研修の廃止、有給取得の在り方について見直しがあったことで、様々な思いや意見が広がり、どのように皆のモチベーションを方向付けていくかが課題である。

【2025 年度:学校関係者評価】(保護者の会会長)

幼稚園の教育方針・保育の特色として掲げられている内容が、日々の保育の中で随所において実践されていることを、常々実感している。

黒門までの並木道には毎朝、登園する子どもたちを迎える先生方や事務の方、用務の方が立ってくださり、黒門では園長神父様が子どもたち一人ひとりに笑顔向け、名前を呼んで迎えてくださっている。そのような温かな環境の中で、子どもたちが安心して登園し、保育を通して豊かな感性や知識を育みながら健やかに成長していく姿を、保護者として大変嬉しく感じている。

カトリック教育を土台とした思いやりや祈りの心を育む保育は、子どもたちの落ち着いた姿や優しい関わりにも表れており、安心して子どもを預けられる環境であると感じている。また、日々の声掛けや行事、園生活を通して、子どもたちの「今」だけではなく、将来社会の中で人を思いやり、自ら考えて行動できるような人格形成の芽を育てようとしている想いも伝わってくる。

安全面の管理においても、細やかな配慮が日々積み重ねられており、園児の安全を第一に考えてくださっていることに、保護者として大きな安心感がある。

そして、時代の変化に合わせた園運営や保護者への情報発信においても、アプリやSNSを活用しながら円滑な連携に努めてくださり、分かりやすく親しみの持てる環境づくりが進められていると感じる。

特に、預かり保育体制の利用のしやすさや課外活動の充実、満三歳児保育の開始など、歴史ある幼稚園としての教育方針や特色を大切にしながらも様々な取り組みがなされており、その流れの中には、前年度に続く保護者の会活動における体制改革もあった。園と保護者の会が協力・連携のもと新たな取り組みを実施できたことは、伝統を大切にしながらも時代に合わせて柔軟に歩みを進めておられることを感じる意義深い経験であった。

働きながら子どもを預ける家庭にとっても心強く、園生活と家庭生活の両立を支えていただきながら、保護者自身も園に関わることのできる貴重な機会となった。

我が子をこの幼稚園に通わせることができたことを、保護者として心より嬉しく、誇りに感じている。

園に関わってくださるすべての方々に感謝するとともに、今後も子どもたちが安心してのびのびと過ごせる温かな園であり続けることを願っている。

足立サレジオ幼稚園

園の教育方針	カトリックサレジオ修道会の教育方針(ドン・ボスコの精神)に従って宗教・愛情・納得を土台にした教育を行う。「子ども達を愛するだけでは足りません。子ども達が自分たちが愛されていると分かなければなりません」(聖ドン・ボスコ)
保育の特色	学年の目標を明確に決めて 1 年間その目標に向かって成長を見守り、それぞれの個性に沿った成長過程を受け止める。担任以外の先生にもクラスの様子や子供の成長の様子を伝え、全教職員で見守り、援助してもらうことでより目の届いた保育となる様務める。縦割りの時間を大切に異年齢児と一緒に過ごすことで年下の子を思いやり援助したり、上の子を目標にしたりする向上心を養う。

評価項目	取組目標	2025 年度目標方針の内容	評価	備考
保育課程の 編成と実施	幼児教育要領 の理解と教育 課程の改善	満3歳児:遊びや経験を通して色々なことに関心を持ち保育者や友だちと触れ合いながら楽しんで遊ぶ。また、生活の流れに見通しを持ち、身の回りのことも自分でしようとする気持ちを育てる。 年少:基本的生活習慣や園での約束事を身に付け、友達と様々な体験を重ねる中で折り合いをつけながら自分の気持ちを調整できるようにする。 年中:友達や保育者と色々な経験をする中で、自己の興味・関心を深めて遊び込む。遊びの中で相手の気持ちに気づいたり、自分の気持ちを言葉で表現する。 年長:遊びや生活の中で子ども達同士が話し合える機会を作り、みんなで作り上げていけるよう配慮し必要な言葉掛けをしていく。	B B B B	満3歳児:生活の流れに見通しを持ち安心して過ごす姿が芽生えていった。また保育者との関わりから安心して過ごせることで次第に自分のことをやってみようという気持ちや友達への関心興味が広がっていった。しかし個人差があるため一人一人の発達成長に合わせ援助する必要があった。 年少児:身の回りの事等自分でできるようになった。園での約束事も覚えて活動後の片付けもできるようになった。友達との意見の相違があった時に思い通りにならないと泣いたり怒ったりすることもまだあったため保育者の仲介が必要だった。 年中児:虫探しやルールのある遊びに興味関心を持ち友達と遊び込む姿が見られた。遊びの中で相手の気持ちに気づくことはできるが、思い通りにならないと口調が強くなることがあり繰り返し伝え方については話をしてきた。自分の気持ちを言葉で表現することはできるが、相手への伝え方を知ってほしい。 年長児:絵本「こどもかいぎ」の読み聞かせを通して話し合う大切さを感じられるようにしてきた。また、自分の意見を伝えるだけでなく、相手の話にも耳を傾けながら進めていくことの大切さについてもイメージをもてるよう援助してきた。遊びや活動の中で子ども達同士で話し合いながら解決していけるよう必要な言葉掛けのみを意識して関わってきたが、自分の思い中心の姿が多く、その都度声掛けを行っていったのが難しかった。
	本園の伝統や 特色ある保育 の反映	満3歳児:聖歌やお祈りを通して、神様の存在を知り、親しみが持てるように伝えていく。また、たくさんの愛情をもって接することで、安心感を持ち、感謝や思いやりの心を育む。 年少:お祈りや聖歌、教会での話を通して一人ひとりが神様に愛されている存在だということを伝え、思いやりや感謝の気持ちが持てるようにする。 年中:聖歌やお祈り、教会でのお話を通してお祈りの大切さや意味を伝え思いやりの気持ちが持てるように神様	A A A	満3歳児:日頃の保育者との関わりから安心感を持ち感謝の気持ちや言葉を素直に持つ心が育った。また聖歌やお祈りの際、神様が見守ってくださっているということを伝えることで自然と大切な時間という意識が育った。 年少:教会で神父様の話を聞いた後に簡単な言葉に言いかえて振り返りをしてきた。お祈りや聖歌も覚えて神様を身近に感じる事ができた。 年中:教会での神父様の話を子ども達と振り返り、どのように感じたか話し合いをしてきた。話し合いの中で災害や戦争等についても話をし、恵まれた生活に感

		の存在を丁寧に伝えていく。 年長:日々のお祈りや教会のお話を通してお祈りすることの意味を理解する。神様からの愛を感謝し、神様や自分、周りの人、自然を大切にすることを育む。	A	謝し平和になるようにお祈りをした。今後小さい子への思いやりの気持ちに繋がっていくと良い。 年長:教会での話を子ども達に分かりやすく伝えることに難しさを感じたが、振り返りを繰り返していくことでお祈りすることの意味に少しずつ触れることができたと思う。また、自ら神様にお祈りする姿が見られ、神様への感謝の気持ちが育まれていた。友達に優しく関わろうとする姿や身の回りのものを大切にしようとする様子も見られた。
	幼児の発達 の度合いに応じた 指導計画と 実践	満3歳児:保育者や他者との関わりの中で、子ども達の自立心、好奇心の芽生えを援助し、落ち着いた雰囲気の中で様々な経験をゆったりと積み重ね、自身の思ったことや感じたことを、様々な方法で表現できるよう働きかけを行う。 年少:日々の保育の中で自主性を大切に、子ども達の思いや考えを汲み取り追求できるよう援助する。また、できたことを共に喜び、共感することで更なる達成感を味わい自信を持って行動できるようにする。 年中:主体的に興味・関心のあることを探求できる環境を作り学びを深めていく。また、心の動きや成長に目を向け保育者と一緒に考えたり、時には見守り援助していく。 年長:友達の良さや自分の良さに気づき、互いを認め合えるよう援助していく。また、自然と触れ合う機会を大切に、発見したり試行錯誤したりする楽しさを十分に味わえるように環境を工夫する。	B A A B	満3歳児:一人一人の発達が違うため、落ち着いた雰囲気の中安心して過ごせるよう心掛けた。また、発達段階に合わせ表現ができるように配慮した。 年少:子どもたちが興味を持ったことややりたいと言ったことを受け止め、保育に取り入れてきた。少しでもできるようにになったことは共に喜び、クラスみんなで共有してきた。 年中:製作が好きでお店屋さんごっこや電車づくりをし友達と協力して作り遊びを深めてきた。協力して作る過程の中で友達に目を向け手伝ったり、意見を出し合い進めてきた。うまくいかない時は保育者と一緒に考え、完成に向けて取り組むことができた 年長:友達の良いところに目を向けられるよう、良いところを発表し合う機会を設けたり、得意なことは一人ひとり違うことを伝えてきたことで互いの良さに気づこうとする姿が見られるようになっていった。 自然との関わりでは、園庭の花に興味を持てるように花クイズをしたり、一緒に観察し、生長に気づける時間を作っていた。さつま芋の栽培については、暑さの影響で外に出る時間が限られていたことから水やりや生長を継続的に観察する機会が少なくなってしまう。写真等を活用して継続して関心をもてるような工夫が必要であった。
	一年間の行事 の実施	昨年の行事を踏まえ、満3歳児・未就園児クラスも引き続きできる限り参加し目標に向かって練習を積み重ねたり他学年と交流し、楽しむ。また、行事の後に保護者にアンケートをとったので回答を参考にし行事の実施内容を考える。また、新たにドン・ボスコの祝日に合わせてドン・ボスコフェスタの行事を始めるので、どのような内容にするのかしっかり話し合って決めていく。一学期:入園式、遠足、マリア祭、ファミリーデー、プール遊び、夕涼み会、夏休み、ゆり組ワクワクフェスタ、二学期:引き取り訓練、運動会、バザー、七五三の祝い、同窓会、クリスマス会、三学期:郵便屋さんごっこ・抽選会、ドン・ボスコフェスタ、豆まき、ゆり組お楽しみイベント、ありがとうの会、前夜祭(キャンドルサービス)、卒園式。避難訓練は大事なことからしっかりと行っていきたい。	A	満3歳児・未就園児の行事参加は在園児と一緒に参加することができたところもあるが、おもちゃや誕生会などその年の子ども達次第で参加の時期や方法を検討した。2歳児なのでそのまま無理のない範囲で参加できるとよいと思われる。また、郵便屋さんごっこ・抽選会は年賀状の文化が減り、馴染みがなくなったことで理解が難しい様子が伺えるようになった。そのため来年度からは郵便屋さんごっこは廃止し自由に手紙交換をできるような環境を設け、抽選会は別の形のお楽しみとして実施する。

保育の 研究・研修	園内外の研修に積極的に参加し保育の資質向上をはかる。	サレジオ養成講座は各自オンラインで受講していたが、今年度は園で皆で参加し共有するようにする。 年齢に合った研修会に参加して現状に合った保育ができるようにアップデートしていく。カトリック研修会にも参加して自分たちの園の特徴や意味今まで以上に理解していく。	A	サレジオ養成講座は教員全員で受講して分かち合いも行うことができた。カトリック研修も参加できた。足立区主催の年齢別の研修にも参加できた。
保護者・地域 社会との連携	近隣の小学校との交流協力連携互恵のある交流	ブロック会議、幼保小の研修に参加して進学に向けての準備を学び、子ども達に伝えていく。 小学校交流会や給食体験や行事の見学に参加して小学校の雰囲気慣れたり、期待がもてるようにする。	A	体育発表会の見学や体験給食、国語科の授業参加をし、小学校との様々な交流の機会をもつことができた。 実際の学校生活に触れることで、小学校への期待や興味を高めるとともに進学への見通しを持つ姿が沢山見られた。
	地域の要請応えた子育て支援(預かり保育等)	今年度より0.1.2歳児の子育て支援「いちごクラブ」が木曜日になるため今までより実施回数が増えより園に来る機会を設けられると考える。また、2歳児対象の週に1日の「もも組」が始まることでゆっくり子育てを行いたい保護者の方も安心して預けられるようにしたい。預かり保育も定期利用を始めることで預かりを申込む方を増やしていきたい。	A	いちごクラブはロコミからの参加があった。もも組は上半期は2名下半期に5名に増えましたがもう少し増えると保育の幅も広がるのではと思う。ベビーマッサージを開始した。マッサージだけではなく保護者のストレッチをしたりアロマを使って虫よけ、柔軟剤などを作りお土産にできたので喜ばれた。
	保護者との連携 行事情報発信等	レーザーキッズのアプリを引き続き活用することで教職員も保護者もお互いが円滑に情報共有をできるようにする。SNSを利用していない方もいるのでHPを見やすいものにし、園を紹介できるようにする。見学希望の方には引き続き丁寧に対応を行い入園希望者へとつなげられるようにする。保護者の会の活動については事前に決めることは早めに呼びかけ余裕をもって集まる日程など調整してもらえるよう気を付けていく。	A	レーザーキッズは保護者も徐々に慣れてきて不明点など減ってきているように感じる。SNSの投稿も昨年度より増えているが、やはり保護者の情報の得方がホームページが多いのでホームページの改善は大事に検討していきたい。
安全管理	防災非難訓練の実施 防火訓練の実施 安全点検	防火訓練は毎月設定を変えながら実施していく。低学年は防火訓練日以外の日にも無理のないように練習を取り入れて意識付けをしていく。防火面では、様々な場合の不審者侵入を想定してマニュアル作成を行っていく。降園のお迎えの引き渡しは確実にできるようにイレギュラーな時にきちんと対応できるように日頃から高い意識をもって行う。	A	今年度より防火訓練を子どもも含め実施した。実際に子どもを含めて訓練をすると急いで集めること、外遊びの教職員の配置場所によって不審者に気が付くことなどの難しさが実感できた。それらを踏まえて今後の防火対策に取り入れていきたい。防火訓練は全学年で行ったが年齢が上がるにつれて避難も上達し、日々の訓練の大切さが実感できた。
保健管理	幼児の健康に係る年間指導計画	健康面は引き続き気を付けていくが特に暑さが年々増えているので子どもたちに熱中症の話をし水分補給の大切さなどを伝えていく。	B	暑さに関しては暑さ指数計を使用しながら判断をしてきた。テントも増やしたり水分補給もこまめに取り扱うように指導した。風邪を引いた時に自ら鼻水をかんだり拭くことが難しかった。
	健康診断の定期的な実施と把握	引き続き定期的な健康診断、内科検診や歯科検診などを確実に進行。	A	実施できた
施設管理	施設・設備の点検と保守・改修の年間計画	満三歳児の机や本立てが古いため、新しくしていく。防災、エレベータ点検と110番通報は引き続き定期的に点検してもらう。期限の切れる消火器の入れ替えを行う。今後も計画的に入れ替えのできていないクラスのエアコンを進めていきたい。	A	満三クラス備品は購入できた。満三のエアコンも新しくすることができた。
	実施したい改修工事等	西日、荒天時の雨の吹き込み防止のためのオーニング工事、ばら組のエアコンの入れ替え工事を実施していく。	A	実施できた。

省エネルギー の取組	教職員の意識 及び実践	節電、消耗品やコピー用紙の裏紙使用は徹底して実践し ていく。	B	実践できていたが、教職員間で意識が異なっている 場合もあったので再度共有していきたい。
---------------	----------------	-----------------------------------	---	--

【2025 年度:学校関係者評価】(保護者の会)

入園前の見学時より、園長先生が保護者の話に丁寧に耳を傾けてくださる姿や、案内中であつても園児の声にしっかり応じる様子が印象的で、子ども一人ひとりを大切にする園の姿勢を強く感じました。入園後もその姿勢は変わらず、職員の皆さまが子どもの成長を共有しながら温かく見守ってくださっていることが伝わり、安心と感謝の気持ちを抱いております。

少人数ならではの良さを活かし、すべての先生が子どもや保護者の顔と名前を把握し、一人ひとりに寄り添った関わりをしてくださっていると感じます。日々の保育や行事には子どもたちの声が反映され、それぞれの興味や個性を尊重しながら、意欲や達成感を引き出す工夫がなされています。また、自分の思いを言葉で伝える力を育む関わりや、思いやりや愛の心を大切にする保育が、日常の中で丁寧に実践されていると感じています。

ドン・ボスコの教育方針に基づき日々の活動が行われており、子どもたちは常に見守られているという安心感の中で過ごしているように思います。先生方が寄り添い続けてくださることで、子どもたちは「大切にされている」という思いを自然と育み、その積み重ねが園全体の温かな雰囲気につながっていると感じます。

また、今年度はドン・ボスコ生誕 100 年という節目の年でもあり、その精神に触れ、より深く学ぶことができた貴重な一年であつたと思います。子どもたちの意見を尊重しながら、さまざまなことに挑戦する大切さを教えていただいたことは、今後の成長においても大きな財産になると感じています。

製作活動に主体的に取り組む機会や、人前で表現する場が豊富に用意されている点も大きな魅力です。こうした環境の中で子どもたちは日々いきいきと過ごし、園内には自然と笑顔があふれています。我が子も毎日幼稚園に通うことを楽しみにしています。

さらに、預かり保育も充実しており、働く家庭にとって通わせやすい環境が整っている点も大変ありがたく感じています。今後も引き続き、このような温かい保育が継続されることを願っております。

町田サレジオ幼稚園

園の教育方針	カトリック精神をもとにサレジオ教育の創立者聖ヨハネ・ボスコの教えである 愛情（信頼） 道理（納得） 信仰（祈り）を基盤とし アシステンツァ（寄り添う教育）を通して 心の教育（明るい心、思いやりのある親切な心、素直で正直な心）を行う。
保育の特色	南多摩の自然豊かな環境の変化を感じ取り広い園庭でのびのびと活動する。 静と動の活動をバランスよく取り入れ、五感を刺激するSTEAM教育を学年ごとに年間を通して行う。

評価項目	取組目標	2025年度目標方針の内容	評価	課題・反省
保育課程 の構成と 実施	幼児教育要領の 理解と教育課程の 改善	満3歳、年少:園生活になれ、一人ひとりが安心して過ごすと共に基本的な生活習慣を少しずつ身に付ける。 年中:先生や大勢の友達とかかわって遊ぶ。基本的な生活習慣を確立する。 年長:様々な経験を通して達成感を得、希望を持って就学へつなげる。異年齢児との関わりを持つ中で年長児として自信を持って行動する。※教育要領の基盤幼児期の終わりまでに育て欲しい姿「10」を本園の教育の実態と同時に小学校との連携を密に取る。	A	満3歳は年度後半から2クラス編成。 年少:2クラス編成。初めてのことに不安戸惑いがないよう個人差を考慮し楽しみながら行えるように配慮した。 年中:2クラスの編成。2クラス常に年間を通してよく協調、連携し協力できた 年長:2クラス編成。特に毎週1回行う縦割りクラスでは年下の子どもたちの面倒をよく見て行事でも年長らしさを随所に発揮していた。※10の姿を元に幼小連携を深め入学する時に戸惑うことがないようにスムーズにアプローチができるように努め支援シート等を通して小学校との連携をとった。(年長のみ一人一つの机を配備している。就学への緩やかな接続に向けて)
	本年の伝統や 特色ある保育の反 映	年少:日々のお祈りや宗教の時間を通して神様を身近に感じる心、家族や友達を思いやる心を育てる。 年中、長:神様の存在やお祈りを通して優しい心を育む。 年中、長:サレジオ高専のイノベーションコモンズの教授と連携を通し、非認知能力の芽生えを助長するために五感の教育を行う	A	年少 宗教の時間で神父様になれ静かに話が聞けるようになった。 年中、年長 聖母祭や七五三の祝福式を通して神様を身近に感じ感謝することが身についてきている。 年中、年長 子どもたちが身近に感じるができる五感を体験を通してわかりやすく話し興味関心が深まった。
	幼児発達の度合 いに応じた指導計 画と実践	満3歳、年少:園生活のリズムや人的環境になれ、自分の好きな遊びを通して友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように保育者や補助員を介しながら様々な関わりを持つ。 年中:いろいろな遊びに興味を持ち保育者や友達とかかわり個々の力を発揮して活動に取り組む。 年長:友達とさまざまな活動を楽しみながら、自分の思いや感じたことを言葉で伝え合い豊かに表現しあいながら年長としての成長を認め合う。	A	満3歳、年少:入園当初は幼さと集団への経験の浅さから来る行動も多く見られた。年度中盤ごろからどの子も落ち着いて活動に取り組めるようになって来た。満3歳児はクラスの子どもたちは年度後半になると集団としての行動ができるようになり12月の発表会も参加できた。 年中:集団生活になれ基本的な生活習慣も確立し、より活発に活動できるようになる。好天の日は一日のうちで必ず外で遊ぶ時間を設け静と動のメリハリがつく活動ができた。 年長:2クラス共、年長としての自覚があり、年中、少への良いお手本が示せた。クリスマスの発表会では年長らしく立派に「聖劇」を演じることができた。
	一年の園行事の 実践	入園式、こどもの日のつどい、春の遠足、聖母祭、ファミリーデー、引き取り訓練、運動会、年長デイクャンプ、遠足、七五三の祝福式、クリスマス発表会、お餅つき、郵便やさんごっこ、豆まき、お別れ遠足、お別れ会、卒園式、隔月の誕生会 サッカー、野球、デフサッカー交流と体験。	A	季節ごと、また日本の古くからの風習に基づく行事を多く経験することで次世代への伝統の継承の必要性を確認する。(行事にまつわることの紹介 例こどもの日→しょうぶ湯 聖母祭→徳の花 七五三→千歳あめクリスマス→プレゼビオ アドベントカレンダー お別れ遠足 ひな祭り→お雛様 など)

保育の研究・研修	園内外の研修に積極的に参加し保育の資質向上をはかる。	保育スキル向上を目指し、私学財団や幼稚園協会主催の研修会などに参加。サレジオ家族研修にzoom参加。新規採用の教員にはできるだけ研修会へ参加させる。年長担任には支援シートに関する研修に参加し、小学校との連携に勤める。	A	特に夏休みには個々にスキルの上達に研修に励み、私学財団、私学幼稚園研修等は保育中も他クラスの職員の協力で研修に出、長期休みのそれぞれの経験年数に応じて研修を受けた。
保護者・地域社会との連携	近隣の小学校との交流協力連携互恵のある交流。	園にもっとも近く年長の中で一番多く入学する小学校に出向き、校内めぐりを要請。副校長と年長担任間の連絡を取り実施日を2者間で調整する。	B	良い経験であった。一番身近な小学校であるため兄姉が在籍している子も多く、憧れや期待を持ってみてくれることができた。実際の小学校を見てくることで入学に期待が持て楽しみにしている姿があった。
	地域の要請応えた子育て支援(預かり保育等)	未就園児クラスのこばと組(親子分離)カンガルークラス(親子クラス)保育室開放(毎週月曜日)園庭開放。乳児保護者への支援(ベビーマッサージ、手型足型アート)エンジェルクラブ(1歳児親子)親子体操	A	エンジェルクラブ(1歳児親子)は在園児の弟妹も多いこともあり毎回盛況である。 町田市の子育て情報誌に掲載することで情報が広まっていることと近隣の八王子市には子育てセンターに毎月の催しのお知らせを置いてもらっていることで周知ができ多くの方が参加してくださった。また駅近の012歳保育施設等にも園案内を置いてもらうために出向いた。預かり保育は利用者の増加により複数で担当。
	保護者との連携行事情報発信等	毎月の園だより、担任からのクラスだより、行事は担当者がイニシアチブを取り計画立案。保護者一斉メール配信。個人面談年2回 レーザーキッズによるお知らせ配信	A	家庭との連携を深めるために文書での周知徹底。個人面談でコミュニケーションを深めることができた。
安全管理	防災避難訓練の実施 防犯訓練の実施安全点検	避難訓練を毎月1回実施。避難滑り台の練習も行う。教職員も準備や進め方の研修を行う。年1回の引渡し訓練の実施。防犯訓練は警察と連携して実施。遊具確認。園内点検。	A	年少:怖がらず、訓練に参加することを主体とし、防災頭巾をかぶる練習、訓練前の約束の確認を毎回し、訓練が身に付くようにしてきた。後半にはスムーズに行動ができるようになってきた。 年中:2階に保育室があるため安全にすばやく避難用滑り台を使う練習を重ねた。訓練には真剣に取り組んでいる。訓練時には補助と担任が連携して安全に避難をすることができている。 年長:経験を重ねているので一斉に速やかに避難ができている 総合的な訓練の際には消防士の方から避難の速さ、避難する態度についてよい評価をいただいている。
保健管理	幼児の健康に係る年間指導計画	目標の基本的生活習慣を身につける為の着替え、手洗いうがいハンカチの使用などの念入りな指導。感染症対策として特に手洗い、消毒をこまめにし、家庭での検温、体調が悪そうな子は園での検温をし、チェックする。暑い時期汗をかいいたらハンカチで拭く。喉が乾いたら水分補給を行う事を適宜伝える、年長、年中児は自分でできるように指導。	A	年少:トイレ清掃、消毒をこまめにした。 年中長:気温によって衣服の調節ができるよう声かけをする。 自ら自分の体調や怪我について話せるように指導している。
	健康診断の定期的な実施と把握	毎月の身体測定、園医による6月の歯科、内科検診の実施	A	毎月の身体測定、園医による健康診断の実施。卒園児には入園時からどのくらい背が伸びたかをひと目で実感できるよう伸びた長さのリボンをはりお祝いのカードにして渡している。成長を実感できると喜ばれている。
施設管理	施設・設備の点検と保守・改修の年間計画	不備が生じた箇所の補修 園舎周りの排水管路修繕	B	テラスの欠陥、木製になったため節が開いたところやびび割れのところの修理を適宜にした。雨季には地下倉庫の床部分に水がたまり吸出してはまたたまるということは無くなった。

	実施したい 改修工事等	砂場の屋根に雨どいがないため大雨ン御あとは プールのようにになっている。2026年度早々に雨ど い設置工事をする。	B	前年度排水の工事をしたため湿気が保育室に入らなくなり快 適に過ごせるようになった
省エネ ギーの 取組	教職員の意識 及び実践	電気、水道の節約。昨年度の費用を伝えることで 高い意識を持てるようにしていく。消耗品の節約。 在庫のチェックと整理整頓をこころがけ、不必要 なものは購入しない。教材研究をし材質や大きさを よく吟味する。	B	季節を通じて電気の節約には注意を向けるようまた特に夏期 には水道の節約にも声掛けをしているが実際どのくらい使っ ているかという認識をした。しかし水道料の減少は見られない。冬 期(11月から3月)の弁当保温器は1クラス35名ほどの分 を暖めることができるものなので学年で合同に使うなどの工 夫もした。省エネは小さいことからの積み重ねであることを共 通に理解し、高い意識を持って行動する。園児への SDGs 関連 の指導と共に。

第三者評価〔2025 年度保護者の会〕

教職員の「子どもたちのために」という思いが感じられる温かい園である。担任だけでなく保育補助の職員も子どもたちをよく見ており、園全体で協力して保育にあたっている点に安心感がある。

園主催の行事が充実しており、運動会やクリスマス発表会では、表現や歌、演技などが多く取り入れられ、完成度も高い。年齢ごとに子どもたちの成長が感じられる点も大きな魅力である。

高専との連携教育をはじめ、体操、英語、宗教の時間など、様々な体験や人との関わりの機会が設けられている。

午前保育の廃止や預かり保育時間の延長など、時代のニーズに応じて保護者の意見を取り入れながら柔軟に対応していると感じた。

今後も、自然豊かな環境の中で、穏やかでのびのびとした保育・教育が継続されることを期待したい。

(4) 令和7年度決算に対する監事の監査報告及び会計監査人の
会計監査報告

監事監査報告書

令和 8 年 6 月 3 日

学校法人育英学院

理 事 会 御 中

評 議 員 会 御 中

学校法人育英学院

監事（常勤）

須藤 聖史

監事

大川 千村

私たち監事は、私立学校法（令和 7 年 4 月 1 日施行）第 52 条第 1 項第 1 号及び学校法人育英学院寄附行為第 28 条の規定に基づき、学校法人育英学院（以下、「本法人」といいます。）の令和 7 年度（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）の本法人の業務及び財産の状況並びに理事の職務の執行の状況について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及びその他重要会議に出席し、理事及び職員等から報告を受け、必要に応じて意見を述べたほか、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

また、事業報告書に記載されている理事の職務の執行が、法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制その他学校法人の業務の適正を確保するために必要なものとして、私立学校法施行規則第 13 条各号に定める体制の整備に関する理事会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制体制）について、理事及び職員等からその構築及び運用状況について報告を受け、必要に応じて意見を述べました。

計算関係書類及び財産目録については、会計監査人から、「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（私立学校法施行規則第 37 条 3 号）を整備している旨の通知を受け、その職務の執行状況について報告を受けました。

2. 監査の結果

（1）事業報告書等の監査結果

事業報告書及びその附属明細書は、法令又は寄附行為に従い本法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

内部統制体制に関する理事会決議の内容は相当であり、内部統制体制に関する事業報告書の記載内容及び理事の職務の執行についても指摘すべき事項はありません。

（2）計算関係書類及び財産目録の監査結果

会計監査人太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であることを認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

令和8年6月2日

学校法人育英学院

理事会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 八 代 輝 雄
業 務 執 行 社 員指定有限責任社員 公認会計士 島 津 慎一郎
業 務 執 行 社 員

< 計算関係書類監査 >

計算関係書類に対する監査意見

当監査法人は、私立学校法第104条第2項に基づき、学校法人育英学院の令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）の計算関係書類（計算書類、すなわち貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、重要な会計方針、その他の注記及びその附属明細書をいう。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算関係書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠して、当該計算関係書類に係る期間の財産及び収支の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

計算関係書類に対する監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算関係書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告書及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算関係書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算関係書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算関係書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算関係書類に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠して計算関係書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算関係書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算関係書類を作成するに当たり、理事者は、継続法人の前提に基づき計算関係書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に基づいて継続法人に関する事項を開示する必要がある場合には、当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

計算関係書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算関係書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算関係書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算関係書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算関係書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続法人を前提として計算関係書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続法人の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続法人の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算関係書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算関係書類の注記事項が適切でない場合は、計算関係書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続法人として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算関係書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算関係書類の表示、構成及び内容、並びに計算関係書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、私立学校法第 86 条第 1 項及び私立学校法施行規則第 24 条に基づき、学校法人育英学院の令和 8 年 3 月 31 日現在の令和 7 年度（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）の財産目録（貸借対照表に対応する項目に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、全ての重要な点において、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠しており、貸借対照表と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠するとともに、貸借対照表と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる学校法人会計の基準に準拠しており、貸借対照表と整合しているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(5)令和7年度末の財産目録

財 産 目 録

令和8年3月31日現在

学校法人 育英学院

(単位 円)

科 目		年 度 末	
一	資産額		
(一)	基本財産		
1	土地		
	サレジオ工業高等専門学校	40,528.72 m ²	3,765,569,100 円
	サレジオ中学校・小学校	7,911.34 m ²	30,402,472 円
	目黒サレジオ幼稚園	5,121.00 m ²	24,232,572 円
	足立サレジオ幼稚園	1,396.57 m ²	219,135,799 円
	町田サレジオ幼稚園	4,935.79 m ²	529,965,775 円
	SITEC (研修施設)	12,575.36 m ²	442,095,954 円
	小計	72,468.78 m ²	5,011,401,672 円
2	建物		
(1)	校舎	24,131.12 m ²	2,415,785,793 円
(2)	体育館	2,818.06 m ²	475,227,280 円
(3)	学生寮	1,122.99 m ²	79,450,906 円
(4)	SITEC (研修施設)	1,482.81 m ²	228,871,238 円
(5)	その他	2,562.53 m ²	241,641,982 円
	小計	32,117.51 m ²	3,440,977,199 円
3	構築物	162 点	40,540,394 円
4	教育研究用機器備品	10,048 点	179,395,937 円
5	管理用機器備品	328 点	18,623,544 円
6	図書	58,852 冊	166,463,215 円
7	車両	9 台	4,065,864 円
(二)	運用財産		
1	現金・預金		
(1)	現 金		3,168,526 円
(2)	普通預金		857,724,412 円
(3)	定期預金		681,181,522 円
	小計		1,542,074,460 円
2	積立金 (施設修繕・整備拡充引当特定資産)		1,389,675,724 円
3	電話加入権		2,483,397 円
4	施設利用権		2 円
5	有価証券	米国株式	2,559,463 円
6	出資金		30,000 円
7	預託金		109,620 円
8	ソフトウェア		2 円
9	未収入金		69,285,994 円
10	短期貸付金		380,000 円
11	前払金		5,408,192 円
12	立替金		207,900 円
13	仮払金		97,600 円
14	研修旅行預り資産	普通預金	31,124,000 円
合 計			11,904,904,179 円

(単位 円)

科 目		年 度 末	
二	負債額		
	(一) 固定負債		
1	長期借入金	169,384,000	円
2	退職給与引当金	472,094,110	円
	(二) 流動負債		
1	短期借入金	23,334,000	円
2	未払金	36,504,683	円
3	前受金	55,180,000	円
4	預り金	4,489,800	円
5	研修旅行預り金	31,124,000	円
6	賞与引当金	51,860,979	円
合 計		843,971,572	円